2023～ 社会福祉原論	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	田中　治和	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

社会福祉学批判―社会福祉学と社会福祉実践への根源的問いかけ

■授業の目的

社会福祉学を人間と社会を対象とする学問分野と措定し、社会福祉学研究及び実践に関する用語や術語の吟味・再考を目的とし、多角的かつ批判的に考察します。

■授業の到達目標

社会福祉学研究と社会福祉学実践の本質を問う観点（立場）について、各自がその仮説提示をすることができます。

■授業の概要

社会福祉学研究、及び社会福祉学実践の根源的課題について考究します。“社会福祉”は、歴史的には、（日本に限定しても）慈恵、慈善事業、感化救済事業、社会事業、及び厚生事業等も名称変更を経ながら、現在の社会福祉に至っています。その過程では、”社会福祉“は社会政策や社会保障、更には、公的扶助との概念が交錯、あるいは相互関連しながら、一見わかりやすく（例えば、人間の幸せ等という言説）、されど説明し難い概念と言えます。

さらに社会福祉士等の国家資格化とそれへの対応としての社会福祉教育は、社会福祉事象に関する知識が標準化され、実習・演習の一定の質の向上があったと評価できます。しかし、国家試験が学部教育においては、結果として用語・術語の学習に留まる状況があり、研究面では、とりわけ本質的考究を目指す研究の低迷・停滞は当然の帰結といえるかもしれません。

この授業のオンデマンドにおいては、社会福祉学研究、及び実践のキーワード的な用語・術語の考察、つまり再考・再吟味を主に拙稿（担当教員の論文）を用いて論述し、各自がそれを批評する内容とします。

また対面では、「社会福祉の人間観」に関する拙稿（担当教員の論文）を用いて、合評（参加者で感想や意見交換等）することとします。以上を通して各自の社会福祉観の仮説提示に繋がることが目的です。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	社会福祉原論とは	原論	なぜ社会福祉実践と社会福祉学研究に「社会福祉原論が必要なのかを考えてください。
2	社会福祉に学問は必要ですか？	学問、学ぶとは	社会福祉実践において、なぜ学問が必要なのか？利用者にとって意味があるのかを考えてください。
3	高齢者観再考	高齢者、老人	高齢者と老人の違いは、何でしょうか、考えてください。
4	障がい者観再考	しょうがい	障がいをどのように表記しますか、考えてください。
5	自立支援の意味を再考	自立、支援、専門性	自立とは何か？ご自身は自立されていますか？支援と援助の違いは何でしょうか？そも

			そも専門性とは何を指していますか？
6	「利用者本位」再考	利用者、患者、被保護者	「利用者」とは誰を指していますか？「利用者は、自分自身を利用者」と捉えていますか？考えてください。
7	レポート課題１の作成（その１）	先行研究	レポート課題１の作成を目指して、先行研究を蒐集してください。
8	レポート課題１の作成（その２）	推敲	レポート課題１の作成を目指して、推敲してください。
9	必読図書を読む①	精読	池田敬正先生の文献の【序・第一章】を読み込んでください。
10	必読図書の読む②	精読	池田敬正先生の文献の【序・第一章】を読み込んでください。
11	必読図書の読む③	精読	池田敬正先生の文献の【第二章・第三章】を読み込んでください。
12	必読図書の読む④	精読	池田敬正先生の文献の【第二章・第三章】を読み込んでください。
13	必読図書の読む⑤	精読	池田敬正先生の文献の【解説】を読み込んでください。
14	レポート課題２の作成（その１）	先行研究　省察　内省	レポート課題２の作成を目指して、先行研究を蒐集してください。またこれまでのご自身の経験等を振り返ってみてください。
15	レポート課題２の作成（その２）	推敲	レポート課題２の作成を目指して、推敲してください。

■スクーリング事前課題（学修時間目安：4 時間以上）

社会福祉学研究における、現時点での各自の研究課題に関する先行研究を蒐集し、なぜそれを研究課題とされたかを今一度問い直されてみてください。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	社会福祉原論とは何か。	オンデマンド
2	社会福祉学研究の「学問」とは、実践になぜ「学問」が必要なのか。	オンデマンド
3	高齢者観再考。	オンデマンド
4	障がい者観再考。	オンデマンド
5	自立支援の再吟味。	オンデマンド
6	「利用者本位／相手の立場に立つ」は可能か、またその方法は…。	オンデマンド
7	「社会福祉の人間観に関する批判的考察」の合評会①	対面
8	「社会福祉の人間観に関する批判的考察」の合評会②	対面
9	「社会福祉の人間観に関する批判的考察」の合評会③	対面
10	「社会福祉の人間観に関する批判的考察」の合評会④	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：4 時間）

スクーリングで学ばれたことを機縁とされ、社会福祉原論に関する先行研究、並びに各自の人生経験（仕事や日常生活全般を通して※福祉の仕事に限定しておりません）等をも振り返りながら、自らの社会福祉観をまとめてみてください。

■レポート課題

課題 1 （事前課題）	現代社会における社会福祉学研究の課題を一つ取り上げ、それを論評してください。
課題 2 （事後課題）	自らの実践、経験を含め、あわせて社会福祉学の先行研究を援用しながら、自らの社会福祉観の仮説を提示してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

（課題 1）

現代社会の諸問題のうち何を社会福祉学の課題とするのか、否か、が社会福祉学を研究する上で、重要な分岐点となります。（とても難しいことですが）広く社会状況の変貌と諸科学の動向をも概観しながら、社会福祉学の対象を見つけてください。 何を「社会福祉学の対象とするか？」、その問いを自らが見出してください。ご自分の研究課題（修士論文のテーマ）とも関連しながらまとめることをお勧めします。

（課題２）

社会福祉学を学ぶために最も重要な社会福祉観を借りものではなく、自らのものにするために、ご自分の経験を大切にしながら、また、あわせて先行の理論研究も学びながら、できうるだけご自分の言葉で述べてみてください。

■評価の方法・基準

スクーリング 70%、課題レポート 30% とします。

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

池田敬正『人類を進化させていく社会共同による人間福祉の成立とその展開』（高菅出版、2016 年）
この文献は、池田先生(1930-2015)の遺稿論文集です.。

その他参考文献は、オンデマンド時に配信しますレジュメ（拙稿）に記載しております。

2023～ ソーシャルワーク論	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	田中　尚	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

ソーシャルワーカーの実践力の向上及び実践環境の構築とそのために必要とされるソーシャルワーク理論

■授業の目的

ソーシャルワークの実践理論・モデルと実務・実践活動を結び付け、理論・モデルに基づく対象把握、実践を行えるようにさせる。

■授業の到達目標

・3つの対象レベル（個人・組織・地域）において、ソーシャルワークの実践理論に基づき、対象の統合的な理解・把握、アセスメントができる。
・ソーシャルワークの理論・モデルと結び付けて、自身の実践の計画・振り返り・改善を行う。
・エコマップ等、視覚でとらえ、説明し、相手の理解が得られるよう、カンファレンス等で使えるためのツールを身につける。

■授業の概要

ソーシャルワークの実践力の向上と人材育成は、一般的な「福祉教育」、教育機関による専門教育、実践現場での研修やスーパービジョンなど、重層的に行われているが、ソーシャルワーク分野は、従来の福祉六法の範囲はもちろん、新たな分野にも広がりを見せており、それらの領域での人材不足は実践現場で深刻な問題となっている。ここでは、学生それぞれが自身の関心分野・領域を定め、それについて文献等の調査を行い、実践力の向上と人材育成に焦点を当て、その歴史的経緯を検討し、また、他国や他分野との比較を試み、ソーシャルワーク実践の課題を考察する。さらに、ソーシャルワーク理論やその価値とするところを確認し、実践上の現状とその課題を検討する。検討の枠組みとしては、ソーシャルワークの実践力の向上と人材育成の実践に使用する知識・技術の基盤となる自我心理学理学、認知・行動理論やエコシステム論など、ソーシャルワークの主要理論の適用などを検討する。ジェネラリスト・ソーシャルワークの理解を踏まえて、ミクロ・メゾ・マクロの各視点からのソーシャルワーク実践の理解を深め、価値を生み出すキーワードとして、社会構成主義の観点を取り上げ、実践を批判的に分析することを行う。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	社会福祉実践および実践研究の基本的考え方	質的研究、量的研究、文献調査、参加観察、面接、アンケート、フィールドワーク、エスノグラフィー、研究倫理	様々な研究方法があること、研究倫理の遵守が必須であることを理解する。社会福祉研究論文の幾つかを読み、研究論文の例として参考にする。
2	ソーシャルワークの全体像の把握と確認①	ソーシャルワークにおける価値観	社会構成主義とは何か、その歴史的位置付けは何かを文献から知る。
3	ソーシャルワークの全体像の把握と確認②	エコシステム理論	生態学的視点とシステム論について調べる。
4	ソーシャルワークの全体像の把握と確認③	エコシステム理論の実践への適用	ミクロ・メゾ・マクロ、および各システムの相互作用について、実例を用いて考察する。
5	人材育成に関する理論①	認知・行動理論	認知・行動理論のソーシャルワークへの適用ついて理解する。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
6	人材育成に関する理論②	精神分析・人間性心理学	精神分析的アプローチや人間性心理学のソーシャルワークへの適用ついて理解する。
7	ソーシャルワーカーの育成（実践力の向上と実践環境）①	教育機関におけるソーシャルワーク教育	参考文献を中心に文献調査より、歴史、組織、カリキュラムなどについて調べる。
8	ソーシャルワーカーの育成（実践力の向上と実践環境）②	現場における育成・訓練	現場における学びの特徴、OJT、Off-JT、Self Development、研修体制について調べる。
9	ソーシャルワーカーの育成（実践力の向上と実践環境）③	スーパービジョン	スーパービジョンの定義、種類、機能、プロセス、技術、倫理、体制について調べる。
10	ソーシャルワーカー育成の歴史・制度	他国との比較	アメリカ、イギリスなど、他国の現状と人材育成やその制度の歴史を文献から学ぶ。
11	ソーシャルワーカーの実践力向上①	個人への介入	心理療法・カウンセリングの諸アプローチ・技術を意識する。
12	ソーシャルワーカーの実践力向上②	家族への介入	家族療法の視点からシステム論的思考のあり方を理解する。
13	ソーシャルワーカーの実践力向上③	組織への介入	社会構成主義の観点から現状を考察する。
14	ソーシャルワーカーの実践力向上④	制度への介入	ミクロ・メゾ・マクロの相互関連性を理解する。
15	ソーシャルワーカー育成上の課題	ソーシャルワーク価値との比較検討	ソーシャルワークサービスの質とソーシャルワーカーの実践力の向上との関連を理解し、人材育成の現状と課題についてソーシャルワークが尊重する価値に基づき批判的に考察する。（「レポート課題」の課題１に相当）

■スクーリング事前課題（学修時間目安：35時間以上）

・「在宅学修15のポイント」の２～６までについて学修し、それぞれについて、自身で調べたことを800字程度にまとめる。２～６までそれぞれ800字であるため、全体で4,000字程度とする（対面の演習の１週間前までに提出。）

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	ソーシャルワークの全体像の把握と確認について、講義する。受講生は、ソーシャルワークの全体像の把握と確認を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	ソーシャルワーク実践理論の歴史的変遷について、講義する。受講生は、ソーシャルワーク実践理論の歴史的変遷を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	ソーシャルワークの実践理論① 自我心理学のソーシャルワークへの適用について、講義する。受講生は、その自我心理学を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	ソーシャルワークの実践理論② 認知行動理論のソーシャルワークへの適用について、講義する。受講生は、その認知行動理論を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	ソーシャルワークの実践理論③ システム理論のソーシャルワークへの適用について、講義する。受講生は、そのシステム理論を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	ソーシャルワークの実践理論④ ストレングス視点について、講義する。受講生は、そのストレングス視点を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	ソーシャルワークの展開① 支援を必要とする人との出会い、アセスメント、支援について、講義する。受講生は、その出会い、アセスメント、支援を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド

	授業の内容	授業の方法
8	ソーシャルワークの展開② モニタリング、評価、終結について、講義する。受講生は、そのモニタリング、評価、終結を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
9	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
10	ソーシャルワーカーの実践力とは何か① ソーシャルワークの機能からみる実践力について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
11	ソーシャルワーカーの実践力とは何か② ソーシャルワーク・スーパービジョンからの理解について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
12	ソーシャルワーカーの実践力とは何か③ ソーシャルワーカーの人材育成からみる実践力について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
13	ソーシャルワーカーの実践力の向上とは何か ソーシャルワーク・スーパービジョンの実際について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
14	ソーシャルワーカーの実践力の向上と実践環境について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
15	まとめ　ソーシャルワークの実践と理論の統合（現状と課題）について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題２について、「アドバイス」の課題２を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の１月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■レポート課題

課題 1 （事前課題）	ソーシャルワークサービスの質とソーシャルワーカーの実践力の向上との関連を理解し、人材育成の現状と課題について、ソーシャルワークの価値に基づいて考察する。
課題 2 （事後課題）	ソーシャルワークの理論とその実践における課題、実践上のジレンマ（ジレンマへの対応を含めて）について考察する。

■アドバイス

課題 1 アドバイス

授業の到達目標、概要などを読んで、レポートで取り組む内容をできるだけ絞ることが大切です（広すぎると与えられた文字数では、学部教科書レベルの内容をまとめただけになってしまいます）。また、大学から送られてくる参考文献だけでは求められるレポートの質に到達することが困難であるため、自身の関心に従ってレポート課題（テーマ）に関する文献を探し出す努力が必要です。大学からの参考文献は、そのためのガイドとして考えてください。

課題 2 アドバイス

目標は、ソーシャルワーカーの実践力の向上とその実践環境についての検討・分析能力を高めることにあるため、それを意識して、価値・理論・知識・技術を選び、具体的な理解までを目指してください。上記の内容以外でも構いませんが、実際に実践・事例を検討・分析することを念頭に選んでください。

■評価の方法・基準

・事前課題レポート（25%）
・全スクーリング（50%）

・事後課題レポート（25%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）久保紘章・副田あけみ（2005)『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店.

2）日本社会福祉学会機関誌（最新版)『社会福祉学執筆要領「引用法」』(コピー)

3）伊藤淑子（1996)『社会福祉職発達史研究：米英日三カ国比較による検討』ドメス出版.

※3）の図書は、新品在庫僅重版予定無しのため配本できませんが、非常に大切な内容ですので、中古を入手する、または図書館で借用するなどしてお読みください。

4）好井裕明（2006)『「当たり前」を疑う社会学』光文社新書.

5）Schon, D. (1984) The reflective practitioner: how porfessionals think in action, Basic Books. (=2001, 佐藤 & 秋田訳『専門家の知恵』ゆみる出版.）

6）小池和夫編（2006)『プロフェッショナルの人材開発』ナカニシヤ出版.

7）Polanyi, Michael（1996）The tacit dimension. Routledge & Kegan Pau. (=1980. 佐藤敬三訳『暗黙知の次元』紀伊国屋書店.）

8）金井壽宏（2012)『実践知』有斐閣.

9）Gergen, K. (1999) An invitation to social construction, Sage. (=2004, 東村知子訳『あなたへの構成主義』ナカニシヤ出版.）

10）Flick, Uwe（1995）Qualitative forschung. (=2002, 小田他訳『質的研究入門』春秋社.）

11）平山尚他（1998)『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房.

12）太田義弘（1992)『ソーシャル・ワーク実践とエコシステム』誠信書房.

13）遊佐安一郎（1984)『家族療法入門：システムズ・アプローチの理論と実際』星和書店.

14）Toseland, R & Rivas, R. (1998) An introduction to group work parctice (=2003, 野村豊子監訳『グループワーク入門』中央法規出版.）

15）Obholzer, A. & Roterts V. Z, (2006) The unconscious at work: individual and organization stress inhte human services, (=2014, 武井麻子監訳『組織のストレスとコンサルテーション』金剛出版 .）

16）高良麻子（2017)『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル』中央法規出版.

17）Goldstein & Noonan（1999）Short-term treatment and social work practice. Simon & Schuster, inc. (=2014, 福山和女他監訳『総合的短期型ソーシャルワーク』金剛出版.

2023～ ソーシャルワークリサーチ・研究方法論	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	大島　巌	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

受講者自らのソーシャルワーク実践を振り返り、実践の質を高めると共に実践現場からの発信力を向上させるために必要な科学的なソーシャルワーク研究方法論を学び、実践的な研究力と同時に実践力をも身につけます。

■授業の目的

通信制大学院の研究科専攻等の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づき、実践の質向上に資する実践的で科学的なソーシャルワーク研究方法論の知識と記述、価値観を学び、実践研究力と同時に実践力をも身につけることを目的にします。

■授業の到達目標

・実践家が自身の実践を振り返って実践の質を高め、実践現場からの発信を高める実践研究の取り組みが、実践活動の一部であることを深く理解する。
・受講者自身の実践はもちろん、自職場で取組む社会サービス（プログラム）、さらには自職場の諸活動をソーシャルワークリサーチの観点から振返り、それぞれの実践や活動、プログラムの改善やより良い実践の創出に反映することができる。
・科学的なソーシャルワーク研究方法論を用いて、自職場での実践を振返り、情報発信力を高めて、他の同様な課題を抱える実践現場の向上に資する情報発信ができるようになる。

■授業の概要

・各地の実践現場において、さらには社会全体において有用な実践と活動、社会プログラムを生み出すことに役立ち、インパクトを与え得る科学的なソーシャルワークリサーチ、研究方法論を身に付けるために、体系的なソーシャルワークリサーチ・実践研究方法論を教授します。
・「修士論文研究計画法概論」の授業を引継ぎ、本授業の中では、「概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」をさらに随時ブラッシュアップして、より実践に有用で、社会的なインパクトの高い研究計画になるようサポートします（なお科目等履修される方は、ご自身がお持ちになっている研究課題について「研究計画書」を作成の上、ご参加ください）。
・「学位請求論文研究計画書」（科目等履修生の場合は「研究計画書」）は、授業期間中、3回にわたって行う同時双方向リモート授業の際に、それまでに行うオンデマンド授業の成果を踏まえて改訂をして頂きます。
・オンデマンド授業は、この授業のために独自に講師が作成した授業資料と、動画資料に基づいて行い、各回ともコメント票（ミニレポート）を提出して頂きます。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	実践現場に役立つ「実践研究」の進め方、まとめ方	実践研究はなぜ必要か、実践に有用な実践研究とは	実践研究はソーシャルワーク(SW)実践のプロセスと類似する。良い実践研究の条件とは。

2	科学的根拠に基づくソーシャルワーク実践とは	エビデンスに基づく実践(EBP)、実践現場での有用性	エビデンスに基づく社会的位置づけの確保、社会サービスの質向上、アカウンタビリティ
3	実践研究の取組みのプロセス	どのように実践研究に取り組むのか、質的研究・量的研究・混合研究法の適用	どのようなプロセスで実践研究に取り組めば良いのか、質的研究・量的研究・混合研究法の適用方法
4	ソーシャルワークリサーチにおける研究倫理	SW 実践の介入と研究倫理、文化的背景への配慮	SW 研究の一般的なガイドライン、研究のメリットと不利益のバランス、文化的背景への配慮
5	研究課題の定式化、研究上の問い（RQ）	研究課題定式化の方法、優れた RQ の設定方法	プログラムスコープの活用、課題解決方法の創出、RQ 整理票の活用
6	研究課題、RQ を定式化する定性的、定量的な把握方法、調査方法	定量的評価に求められる正確な評価測定方法、量的・質的評価の方法	研究課題、RQ を定式化に対応して、適切な定性的・定量的な指標、尺度、インタビューガイドを選択する方法を提示します
7	実践研究に関わる調査の種類と実施方法	自記式調査、面接調査、評定調査などの実施方法	実践研究に関わる質問紙調査、評価調査などさまざま調査の種類と実施方法を示します
8	サンプリングの方法	量的研究・質的研究のサンプリング、母集団への代表性・典型性、分析方法との関連	量的研究と質的研究それぞれのサンプリング方法を提示します。それぞれの研究方法・分析方法に対応したサンプリングの選択方法を示します。
9	実践および実践プログラムの評価～実験デザイン・準実験デザイン	ランダム化比較試験、準実験法に求められる適切な対照群の設定方法	科学的な介入研究の評価方法についての理解を深めます。対照群設定方法についての留意点、限界などについて検討します。
10	実践および実践プログラムの評価～シングルシステムデザイン	実践現場で取組みが容易な方法としてのシングルシステムデザインの理解を深める	実践現場で取組みが容易な方法としてのシングルシステムデザインの種類・方法・実施上の留意点についてまとめます。
11	実践および実践プログラムの評価～その他のプログラム評価	形成的評価、総括的評価、実践現場で取り組まれるその他のプログラム評価の方法	効果的な実践を設計・開発し、そのモデルを形成・改善し、科学的根拠（エビデンス）を生成する方法を提示します。またモデルを実施・普及するための方法についても提示します。
12	質的実践研究の種類と配慮点	事例研究、ライフヒストリー研究、フォーカスグループ、参加型研究、グラウンディドセオリーアプローチ、TEM、など	実践研究で用いられるさまざまな質的研究の種類と配慮点を示します。
13	質的データの分析	質的データの切片化とコーディング、テキストマイニングなど	質的データ分析の方法論の概要を示します。
14	その他の量的実践研究の種類と、分析方法、配慮点	実践記録の活用と分析、二次データの活用と分析、ビッグデータの活用と分析	その他の量的実践研究の種類と配慮点をいくつかのアプローチごとに示します。
15	ソーシャルワークリサーチ・研究方法論のまとめと、各自の研究計画への反映	研究方法論の知識・技術・価値観の向上に伴う、RQ の深化、研究計画の発展	これまで学んだソーシャルワークリサーチ・研究方法論のまとめを行い、各自の RQ の深化と、研究計画の発展を確認します。

■スクーリング事前課題（学修時間目安：40 時間以上）

3 回行うリモートでのスクーリングの 2 日前までに、「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」（科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」）の改訂版を提出してください。加えて、①スクーリングの前に行うオンデマンド授業をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦労したこと、疑問を感じた点などについて、

コメントをまとめてください。①と②については、A4 用紙 2 枚程度にまとめて、3 回行うリモートスクーリング授業の 2 日前まで提出してください。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	在宅学修 15 ポイントの 1-2 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
2	在宅学修 15 ポイントの 3-4 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
3	在宅学修 15 ポイントの 1-4 に関する解説と質疑応答	リモート授業 (7/15 or 7/16 に相談の上開講、1 コマ)
4	在宅学修 15 ポイントの 5-8 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
5	在宅学修 15 ポイントの 9-10 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
6	在宅学修 15 ポイントの 11 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
7	在宅学修 15 ポイントの 5-11 に関する解説と質疑応答	リモート授業 (9/2 or9/3 に相談の上開講、1 コマ)
8	在宅学修 15 ポイントの 12-13 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
9	在宅学修 15 ポイントの 14-15 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
10	在宅学修 15 ポイントの 12-15 に関する解説と質疑応答	リモート授業 (10/21 or10/22 に相談の上開講、1 コマ)

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30 時間）

「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」（科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」）の最終版の改訂版を提出してください。加えて、①スクーリングの前に行うオンデマンド授業をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦労したこと、疑問を感じた点などについて、コメントをまとめてください。また、③この授業で学んだことが、今後の実践活動にどのように反映できそうであるかに付いてもまとめて下さい。①～②については、A4 用紙 2-3 枚程度にまとめて提出をお願いします。

■レポート課題

課題 1 （事前課題）	「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」（科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」）の改訂版を提出してください。加えて、①スクーリングの前に行うオンデマンド授業をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦労したこと、疑問を感じた点などについて、コメントをまとめてください。
課題 2 （事後課題）	「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」（科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」）の事後課題としての最終改訂版を提出してください。加えて、①スクーリングの前に行うオンデマンド授業をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦労したこと、疑問を感じた点などについて、コメントをまとめてください。また、③この授業で学んだことが、今後の実践活動にどのように反映できそうであるかに付いてもまとめ

	て下さい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

（課題 1）

在宅学修 15 ポイントに関連したオンデマンド教材、およびそれに関わる授業資料をよく参照してください。また、スクーリング時の在宅学修 15 ポイントに関する解説と質疑応答を踏まえて、次の「学位請求論文研究計画書」の改訂に反映させてください。

（課題２）

在宅学修 15 ポイントに関連したオンデマンド教材、およびそれに関わる授業資料をよく参照してください。また、スクーリング時の在宅学修 15 ポイントに関する解説と質疑応答を踏まえて、「学位請求論文研究計画書」（科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」）の事後課題に対応した研究計画書改訂版に反映させてください。

■評価の方法・基準

・スクーリング 40%、課題レポート 60%

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）在宅学修 15 ポイントに関連したオンデマンド教材、およびそれに関わる授業資料

2）平山尚ほか『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、2003

3） Rubin A & Babbie ER: Essential Research Methods for Social Work (Empowerment). Brooks/Cole Pub Co; 第 4 版, 2015

4）福原俊一『リサーチ・クエスチョンの作り方』 NPO 法人健康医療評価研究機構、2008

5）松村真司、福原俊一『概念モデルをつくる』 NPO 法人健康医療評価研究機構、2008

6）古谷野亘、長田久雄『実証研究の手引き』ワールドプランニング、1992

2023～ 情報解析方法論	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	佐藤　善久	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

量的研究に関しての進め方と情報解析の方法と意義の理解

■授業の目的

現代社会における課題解決の手法の 1 つとして、量的情報の収集の仕方や得た情報を分析する方法を学ぶ。具体的には、量的研究の流れを理解し、研究や統計解析等で用いられる用語を理解し、統計解析ソフトを活用し、情報解析ができる。さらには自己の研究課題にも役立てることが望まれる。

■授業の到達目標

① 量的研究の流れを説明できる
② 研究および情報解析で用いられる用語を説明できる
③ 量的研究で統計解析の手法を選択できる
④ 統計解析ソフトを用いて、量的データを分析できる
(⑤ 授業で学んだ手法を自己の研究課題で活用できる)

■授業の概要

研究法で学んだ知識をもとに質的研究法と比較しつつ量的研究法とは何かについて学び、さらに量的研究法で使用される用語や概念に関して、研究のモデル、研究計画の仕方、データのまとめ方、記述統計と推測統計の理解とその意義を学ぶ機会とします。授業内では上記の基本的な量的研究に関わる用語を説明し、演習を通じて統計解析における必要な知識の基盤作りを行います。また、実際のデータをもとにエクセルや統計解析ソフト SPSS を使用して統計解析（記述統計と推測統計）の方法に関する演習を通して学び、そのデータの解釈についても理解する機会を設けます。情報の解析では、各自が所有する PC の表計算ソフト EXCEL を利用するとともに、大学で準備する統計ソフト SPSS を活用して解析法を学びますので該当授業時には PC を持参してください。

■在宅学修 15 のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	統計手法の種類と適用について	記述統計と推計統計（推測統計）の違い	記述統計と推測統計の違いについて説明できるようにしましょう。どのような時に用いるか使い分けを説明できるようにしてください。
2	データの水準	量的研究におけるデータの種類（水準）の理解	名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度の違いを理解し、その違いを説明しましょう。また、各データの種類ごとに例示しましょう。
3	尺度の信頼性と妥当性	データ（尺度）の信頼性と妥当性とは	尺度の信頼性と妥当性について説明し、具体的に例示しましょう。
4	量的研究のモデル	量的研究における定数と従属変数・独立変数・外生変数の理解	量的研究における定数と従属変数・独立変数・外生変数の違いを説明しましょう。その変数を利用して研究モデルを作ってみましょう。
5	記述統計データの表現の仕方と読み方 1	代表値とは	以下の用語について説明しましょう。最小値、最大値、範囲、代表値（平均値（トリム平均値）、中央値、最頻値の違い）とは何か説明しましょう。

6	記述統計データの表現の仕方と読み方2	散布度とは	以下の用語について説明しましょう。散布度（標準偏差、分散、四分位範囲、偏差値）とは何か？
7	パラメトリックなデータとは	パラメトリックなデータの特徴	パラメトリックなデータとはどのような特徴があるか説明しましょう。
8	ノンパラメトリックなデータとは	ノンパラメトリックなデータの特徴	ノンパラメトリックなデータを理解し、パラメトリックなデータとの違いを説明しましょう。
9	群間比較とは	統計学で群間比較をする意味	群間比較することの意味について説明しましょう。また、自己の周囲にあるデータで群間比較可能なデータを例示しましょう。
10	比較する群の数と対応の有無	群間比較する際の群の数と対応の有無	2群と3群以上のデータの比較を例示しましょう。また群間比較において対応の有無となどのようなことを意味するか説明し、例示しましょう。
11	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定	群間比較における検定の選択	群間比較においてどのようにパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を使い分けるか説明しましょう。
12	関係の強さ（相関）	関係の強さを表現する相関とは	相関が高いとはどのようなことか？また、正の相関負の相関とはどのような違いがあるか説明しましょう。
13	データの水準と関係の深さの検討	スピアマン順位相関とピアソン積率相関とは	スピアマン順位相関とピアソン積率相関はどのような違いがあるか、データの水準を使って説明しましょう。
14	変数の予測（回帰分析）	一つの変数から他の変数を予測することとは	運動の量と体重変化のように一つのデータから他の変数を予測するとはどのような意味があるか、またその例を上げましょう。
15	データの水準と統計手法の選択	データの種類による統計手法の選択方法とは	様々なデータの水準と目的（比較・関係の強さ・予測）に応じて統計手法を選択できるようにしましょう。

■スクーリング事前課題（学修時間目安：50時間以上）

在宅学習15のポイントについて事前課題をスクーリング5回目の対面授業までにまとめてメールで提出して下さい。また、スクーリング5の授業の際に理解の状況を確認しますので、印刷して持参して下さい。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	オリエンテーション及び量的研究とは（概論）	オンデマンド
2	研究のタイプとデータの種類（水準）について	オンデマンド
3	研究仮説及びモデルと研究に関連する用語の理解	オンデマンド
4	量的研究における統計解析（記述統計と推測統計）の選択方法	オンデマンド
5	研究モデルの作成と研究計画（情報解析を含む）演習	対面
6	量的データの情報解析におけるEXCELの活用	対面
7	EXCELを用いた情報解析演習	対面
8	量的データの情報解析におけるSPSSの活用	対面
9	SPSSを用いた情報解析演習	対面
10	まとめ	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：20 時間）

・レポート課題の「課題 2」に相当。

・レポートは原則として論述式、解答の長さは 4000 字程度を必須としています。

■レポート課題

課題 1 （事前課題）	・在宅学修 15 のポイントについて、レポートにまとめて下さい。 （レポートは原則として論述式、解答の長さは 4000 字程度を必須としていますが、15 のポイントに分けて記載しても構いません。）
課題 2 （事後課題）	・対面授業の中でデータを配布し、演習課題を提示します。 （レポートは原則として論述式、解答の長さは 4000 字程度を必須としています。）

※提出されたレポートは対面授業内でフィードバックします。

■アドバイス

（課題 1）

在宅学修 15 のポイントについて、レポートにまとめて下さい。対面授業最初（スクーリング 5）の時間に確認作業を行います。スクーリング開始までにまとめられなくともオンデマンドで実施する 4 回の授業の中でも一部説明していますのでその部分を参考にしていただいても構いません。

統計学を始めて学ぶ人は、初めて聞く言葉が多いかもしれません。課題遂行には、下記の教科書を参考にしながら、web 上で用語を検索した、理解しやすく説明する YouTube などもありますので確認しながら進めて下さい。

（課題 2）

対面授業の中でデータを配布し、演習課題を提示します。EXCEL と SPSS ソフトを使用して統計処理の演習課題を行いますので、対面授業の際には各自ノート PC を持参して下さい。なお持参することが難しい時には事前に申し出て下さい。また、当日資料も配布し一緒に演習を行いますが、EXCEL に自信がない人は書籍を購入しても良いかと思います。

■評価の方法・基準

在宅学修 15 のポイントについての事前課題（50%）およびスクーリング後の事後課題（50%）によって評価を行います。スクーリング前のオンデマンド動画に関しても視聴状況を確認しますので必ず視聴して下さい。

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）菅民郎監修、志賀保夫・姫野尚子著『使える 51 統計手法』オーム社、2019 年　⇐入門書

2）阿部真人著『統計学入門　仮説検定から統計モデリングまで重要トピックを完全網羅』ソシム株式会社、2021 年　⇐入門から中級編　（教科書より少し詳しく研究モデルまで記載）

3）栗原伸一、丸山敦史共著『統計学図鑑』オーム社、2017 年　⇐図説で入門書（見やすさで選択する人は図解が多いので理解しやすい書籍）

4）篠原拓也著『できる人は統計思考で判断する』三笠書房、2018 年　⇐統計学がどのように利用されているか（読み物）

5）西内啓著『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社、2013 年　⇐統計学の世の中でどのように活用されているか（読み物）

2023～ 質的研究方法論

単位数	履修方法	配当学年
2単位	SR	1・2年
担当教員	塩野 悦子	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

質的研究方法の基本を学び、研究対応力を磨く

■授業の目的

総合福祉学の専門分野における対象者の理解を深め、より適切な支援方法を探索するために、質的研究方法の基本と実際を理解する。

■授業の到達目標

・質的研究方法の特徴を説明できる。
・質的研究の主な方法論の特徴と手順の概要を説明できる。
・質的研究のプロセスを説明できる。
・質的研究のデータ収集と分析方法を説明でき、事例などを用いて実践できる。
・質的研究のクリティーク方法と論文のまとめ方とについて説明できる。

■授業の概要

本講義では質的研究の基礎と実際について教授する。質的研究方法の意義や特徴を量的研究との比較などから学び、質的研究を行うプロセスについて理解する。特に質的研究方法を用いる上で研究の問いが重要であることを学習する。また、質的研究の主な方法論を中心に、理論的基盤やデータ収集ならびに分析方法について理解する。面接法などの主なデータ収集方法、データの分析の演習を通してより理解を深める。これらを通して専門的分野における対象者の理解を深め、自ら研究活動を行う能力を修得する。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	質的研究方法の特徴	質的研究・量的研究	質的研究の特徴を量的研究との比較などから学ぶ。
2	質的研究の意義 【事前課題①】	社会学的調査・フィールドワーク	文献2）第2章と第3章を読み、質的研究のあり方や意義について考える。
3	質的研究の主な方法論①	各方法の特徴・背景	質的研究方法の種類とその違いを学ぶ。
4	質的研究の主な方法論②	各方法の概要と手順	質的研究の各方法の概要と手順を学ぶ。 (質的記述的研究・内容分析・事例研究グラウンデッドセオリー・エスノグラフィー・現象学的アプローチなど)
5	質的研究の主な方法論③	各方法を用いた文献	質的研究の各方法の特徴を文献より学ぶ。(各方法名で検索してみる)
6	質的研究の問い 【事前課題②】	研究の問い・リサーチクエスチョン	自身のフィールドでの疑問から、質的研究にける「研究の問い」の重要性を学ぶ。
7	質的研究方法のプロセス	研究計画書作成	質的研究の一連のプロセスを学ぶ。
8	データ収集方法	面接法・観察法・インタビューガイドの作成	データ収集方法の種類と概要、インタビューガイドの意義と方法を学ぶ。
9	データ分析方法	コーディング・カテゴリー化	質的研究のデータ分析方法について学ぶ。また、事例より分析の実際を学ぶ。
10	質的研究の評価基準	信頼性・妥当性	質的研究の質を確保する方法を学ぶ。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
11	質的研究における倫理的配慮	倫理的・同意書・説明書	質的研究における倫理的配慮や倫理申請方法を学ぶ。
12	【演習】①面接の実施	面接の練習	身近なテーマを設定し、対象者に実際に面接する（許可をとって録音)。
13	【演習】②データ分析	逐語録作成・コーディング・カテゴリー化	面接後、逐語録を作成し、データ分析を実践する。
14	【演習】③結果の発表	カテゴリー・関連性	データ分析結果を発表する
15	質的研究の読み方・まとめ方	質的研究のクリティーク・論文のまとめ方	質的研究論文のクリティーク方法、論文のまとめ方を学ぶ。

■スクーリング事前課題（学修時間目安：6～10時間）

①文献２）第２章「はいりこむ」と、第３章「あるものになる」の要約と感想。

②現時点での「研究の問い」を３点あげる。

・字数：①②合わせて4,000字程度

・提出期限：オンデマンドスクーリング１週間前まで

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	質的研究の特徴	オンデマンド
2	質的研究の方法論（１）グラウンデッドセオリー・内容分析など	オンデマンド
3	質的研究の方法論（２）エスノグラフィー・現象学アプローチなど	オンデマンド
4	質的研究のプロセス（研究の問い、研究計画書作成など）	オンデマンド
5	質的研究のデータ収集方法（面接法・観察法、グループインタビュー）	オンデマンド
6	質的研究の倫理的配慮・質的研究の評価基準	オンデマンド
7	質的研究の分析方法（事例を用いての実践）・演習説明	対面
8	【演習】データ収集の実施（仮テーマ設定・面接の練習・逐語録作成など）	対面
9	【演習】データ分析とまとめ（発表）	対面
10	質的研究の論文のクリティーク・論文のまとめ方	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：6～10時間）

①質的研究論文を１件選択し、ａテーマと選択理由を述べ、ｂその文献のクリティークをまとめなさい。

②自身のフィールドにおいて、質的研究がどのように活かされるか、本科目の学びを含めて、自身の考えをまとめなさい。

・字数：①②合わせて4,000字程度

・提出期限：対面スクーリング終了１週間後まで

■レポート課題

課題 1 （事前課題）	①文献２）第２章と第３章の要約と感想。 ②現時点での「研究の問い」を３点あげる。
課題 2 （事後課題）	①質的研究論文（１件）クリティーク ②自身のフィールドにおける質的研究の活かし方

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題1
アドバイス

①質的研究を学ぶ前の立場から気楽にお読みください。要約は章ごとに簡潔にまとめ、感想はまとめて記載してください。質的研究（社会学的フィールドワーク）のあり方や意義について考える導入の機会となります。

②「研究の問い」research question を考える練習です。3つ考えてみてください。主語と述語が含まれる疑問形で表現します。自身のフィールドで気になっていることや修士論文で取り上げたいことなどから考えてみてください。文献1)を参照のこと。

課題2
アドバイス

①質的研究方法は、実際の論文を読むことによって、理解が深まります。ぜひ、関心のある質的研究方法を用いた文献を選び、よく読んで、クリティークをしてみましょう。文献の選び方やクリティーク方法は講義で紹介します。

②質的研究を学んだことによって何が見えるようになったでしょうか？　そんな視点から、質的研究が自身のフィールドでどのように活かされるかを考えてみてください。

■評価の方法・基準

スクーリング時の参加度60%、課題レポート40%

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）グレッグ美鈴、麻原きよみ、横山美江編著『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方　第2版　看護研究のエキスパートをめざして』医歯薬出版、2016

＊2）好井裕明著『あたりまえを疑う社会学～質的調査のセンス～』光文社新書、2008

3）中嶌洋著『初学者のための質的研究26の教え』医学書院、2015

2023～ 福祉プログラム開発と評価 ～サービス改善のための実践評価と実践研究の方法～	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	大島　巌	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

実践現場の課題を見直し、課題解決のために取り組む支援サービスを、より質の高い効果的なものへと改善するために用いる「(福祉) プログラム開発と評価」の方法を習得し、実践現場に適用する。

■授業の目的

・受講者が関わる（あるいは関心をもつ）実践の課題に対して、実践の経過、判断や行動の根拠、成果と課題等について、「(福祉) プログラム開発と評価」の方法を用いて客観的に記述・言語化し、検証するための方法を身に付ける。
・社会福祉課題解決のために有効なサービスを生み出し、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な「プログラム開発と評価」の科学的な方法論を学び、実践の現場に適用させる。

■授業の到達目標

・受講者が関わる実践現場の課題に対して、自身の実践の経過、判断や行動の根拠、成果と課題等について、「プログラム開発と評価」の観点から整理して記述し、理論的に説明できる。
・受講者自身の実践について、科学的な「プログラム開発と評価」の方法を用いて評価し、評価から得た知見や示唆を説得力ある方法で発表できる。
・「プログラム開発と評価」の具体的な方法について、①ニーズ評価、②理論評価、③プロセス評価、④アウトカム・インパクト評価、⑤効率性評価、それぞれについて理解し、説明できる。

■授業の概要

・【1-1】社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の意義と方法論を「プログラム開発と評価」の観点から概説する。
・【1-2】スクーリングで前項の質疑応答を行い、理解と知識を深める。受講生が関心を持つ実践現場の課題を共有し、「プログラム開発と評価」の観点から整理し、検討するグループワークを行う。
・【2-1】「プログラム開発と評価」の具体的な方法を、①ニーズ評価、②理論評価、③プロセス評価、④アウトカム・インパクト評価、⑤効率性評価、それぞれについてテキスト教材とオンデマンド授業で概説する。同時に①～⑤を、《1》制度の狭間問題への対応～効果モデルの設計・開発、《2》成果の上がらない制度モデルの改善・再設計、《3》効果モデルの形成・改善、エビデンス生成、《4》海外で効果立証されたEBPプログラムの導入という課題に適用させる方法を提示する。
・【2-2】スクーリングで質疑応答を行い、理解と知識を深める。受講生が関心を持つ実践現場の課題解決にどのように活用すれば良いのか、受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて整理する。
・【3】受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、その課題解決に有効な研究計画・評価計画を作成する。スクーリングでは、その研究計画・評価計画を全体発表・共有して、意見交換する。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	総論1：プログラム開発と評価とは	定義、二つの目的・アプローチ、評価者の立ち位置	授業の概要【1-1】福祉プログラム開発と評価の方法の概説を行う⇒テキスト1章

2	総論 2：評価の 5 階層	社会プログラムの設計・開発、形成・改善、実施・普及の方法	同上【1-1】社会プログラムの設計・開発、形成・改善、実施・普及の具体的方法を評価 5 階層の視点から概説⇒テキスト 2 章
3	総論 3：プログラム理論とロジックモデル	プログラムゴールとインパクト理論、プロセス理論	同上【1-1】社会課題解決の方法である社会プログラムの設計図であるプログラム理論・ロジックモデルについて概説⇒テキスト 2 章
4	各論 1-1：制度の狭間問題への対応～効果モデルの設計・開発(その 1)	制度の狭間問題のニーズ把握、背景要因、ターゲット集団、対応の好事例分析	同上【2-1】《1》ニーズ評価、理論評価の活用方法を概説する⇒テキスト 3 章、5 章
5	各論 1-2：同上（その 2）	プログラムスコープの構造、分析の方法、プログラム理論構築の方法	同上【2-2】《1》ニーズ評価の結果をまとめる方法として「プログラムスコープ」の活用方法を学ぶ⇒テキスト 3 章、5 章
6	各論 1-3：同上（その 3）	各実践現場におけるプログラム理論・ロジックモデルの活用方法	同上【2-2】《1》各実践現場の課題解決の方法に対して、プログラム理論・ロジックモデルを活用する方法を学ぶ⇒テキスト 3 章、5 章
7	各論 2-1：成果の上がらない制度モデルの改善・再設計（その 1）	成果の上がらない制度モデルの課題分析、ニーズ把握、背景分析、ターゲット集団分析、対応の好事例分析	同上【2-1】《2》ニーズ評価、理論評価の活用方法を概説する⇒テキスト 3 章、5 章
8	各論 2-2：同上（その 2）	各実践現場におけるプログラムスコープ分析、プログラム理論・ロジックモデルの活用方法	同上【2-2】《2》ニーズ評価の結果をまとめる方法として「プログラムスコープ」の活用方法、プログラム理論・ロジックモデルを活用する方法を学ぶ⇒テキスト 3 章、5 章
9	各論 3-1：導入した効果モデルの形成・改善、エビデンス生成（その 1）	導入した効果モデルの形成的評価、効果的援助要素、フィデリティ尺度、アウトカム評価との相関分析	同上【2-1】《3》導入した効果モデルのプロセス評価、アウトカム評価の活用方法を概説する⇒テキスト 3 章、6 章
10	各論 3-2：同上（その 2）	各実践現場の課題に対応した効果モデル、効果的援助要素、フィデリティ尺度の構築、モニタリング評価の方法	同上【2-2】《3》導入した効果モデルの形成・改善評価の方法、エビデンス生成方法を、各実践現場の実情に合わせて検討する⇒テキスト 3 章、6 章
11	各論 4：海外の EBP プログラムの導入とインパクト評価、効率性評価、実施・普及評価	導入した海外の EBP プログラムの技術移転の方法、アウトカム・インパクト評価、フィデリティ評価の方法	同上【2-1】【2-2】《4》導入した海外の EBP プログラムの技術移転、実装の方法を概説する⇒テキスト 3 章、7 章、8 章
12	各論 5-1：各実践現場における評価計画の策定（その 1）	評価の計画、データの収集・分析の方法、質的データの分析方法、量的データの分析方法	同上【3】質的・量的データの収集・分析の方法を含めた評価計画の策定方法を概説する⇒テキスト 3 章、9 章、10 章
13	各論 5-2：同上（その 2）	各実践現場における評価計画の策定方法、企画書の作成方法	同上【3】各実践現場における評価計画の策定方法、企画書の作成方法を学ぶ⇒テキスト 3 章、9 章、10 章
14	成果の報告 1：研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告（その 1）	評価の計画、評価結果のまとめ・伝達と活用	同上【3】検討の結果まとまった研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告。全体討論を行う⇒テキスト 3 章、4 章
15	成果の報告 2：研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告（その 2）	評価の計画、評価結果のまとめ・伝達と活用	同上【3】検討の結果まとまった研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告。全体討論を行う⇒テキスト 3 章、4 章

■スクーリング事前課題（学修時間目安：40 時間以上）

社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の方法論である「プログラム開発と評価」を用いて、受講生が関心を持つ実践現場の課題にどのように当てはめれば良いのか、A4 用紙 2-3 枚にまとめて、事前提出をする（11/24 迄）。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	在宅学修 15 ポイントの 1 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
2	在宅学修 15 ポイントの 2 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
3	在宅学修 15 ポイントの 3 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
4	在宅学修 15 ポイントの 1-3 に関する解説と質疑応答	リモート授業（11/4 or 11/5 に相談の上開講、1 コマ）
5	在宅学修 15 ポイントの 4 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
6	在宅学修 15 ポイントの 5 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
7	在宅学修 15 ポイントの 6 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
8	在宅学修 15 ポイントの 4-6 に関する解説と質疑応答、各自課題に関する演習、ワークショップ、意見交換	対面・リモート授業（11/26 or 12/3 に相談の上開講、1 コマ）
9	在宅学修 15 ポイントの 7 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
10	在宅学修 15 ポイントの 8 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
11	在宅学修 15 ポイントの 9 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
12	在宅学修 15 ポイントの 10-11 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
13	在宅学修 15 ポイントの 7-11 に関する解説と質疑応答、各自課題への評価計画に関する演習、ワークショップ、意見交換	対面・リモート授業（12/22 or 12/23 に相談の上開講、1 コマ）
14	在宅学修 15 ポイントの 12-15 に関する成果の報告①	対面・リモート授業（2023 年 1/20 or 1/21 に相談の上開講、連続 2 コマ）
15	在宅学修 15 ポイントの 12-15 に関する成果の報告②	対面・リモート授業（2023 年 1/20 or 1/21 に相談の上開講、連続 2 コマ）

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30 時間）

受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、課題解決に有効な「福祉プログラム開発と評価」の方法を用いた研究計画・評価計画を、A4 用紙 3-5 枚程度（4000 字以上）にまとめて提出する。

■レポート課題

課題 1 （事前課題）	・社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の方法論である「プログラム開発と評価」を用いて、受講生が関心を持つ実践現場の課題にどのように当てはめれば良いのか、A4 用紙 2-3 枚にまとめて、事前提出をする（11/24 迄）
課題 2 （事後課題）	・受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、課題解決に有効な「福祉プログラム開発と評価」の方法を用いた研究計画・評価計画を、A4 用紙 3-5 枚程度（4000 字以上）にまとめて提出する

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

（課題 1）

スクーリングにおいて、「プログラム開発と評価」を当てはめる方法をお伝えし、グループワークで事前検討することにします。

（課題２）

スクーリングにおいて、「プログラム開発と評価」を当てはめる方法をお伝えし、グループワークで事前検討することにします。

■評価の方法・基準

・スクーリング時の参加度 30%、プレゼンテーション 30%、研究計画・評価計画のレポート 40%とします。

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）源由理子、大島巌編（山谷清志監修）『プログラム評価ハンドブック～社会課題解決に向けた評価方法の基礎・応用』晃洋書房.2020

＊2）大島巌、源由理子、山野則子、贄川信幸、新藤健太、平岡公一編著『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法～CD-TEP 法：協働による EBP 効果モデルの構築』日本評論社.2019

3）ピーター・H・ロッシ、マーク・W・リプセイ、ハワード・E・フリーマン（大島巌、平岡公一、森俊夫、元永拓郎 監訳）『プログラム評価の理論と方法～システマティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド』日本評論社. 2005

4）大島巌『マクロ実践ソーシャルワークの新パラダイム～エビデンスに基づく支援環境開発アプローチ：精神保健福祉への適用例から』有斐閣.2016

5）古屋龍太、大島巌編著『精神科病院と地域支援者をつなぐ みんなの退院促進プログラム～実施マニュアル＆戦略ガイドライン』ミネルヴァ書房. 2021

2023～ 生活困窮者支援と貧困研究	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	阿部 裕二	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

貧困と低所得の意味を踏まえながら、多様化・複雑化する対象者に対する支援の方法を考える

■授業の目的

貧困（未就労、低所得、失職、借金、税・社会保険料滞納）とその固定化に対する支援について学ばせる。

■授業の到達目標

労働問題及び格差等の背景と実態を把握し、制度等を活用しながらソーシャルワークを展開できる。

■授業の概要

現代社会において、貧困・低所得といっても一様ではない。貧困概念の拡大を踏まえ、現代の貧困・低所得の現状とその原因・背景を理解するとともに、各種自立に向けた支援の実際について検討する。その際、多職種・多機関の連携を視野に入れながら進める。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	格差と拡大する貧困概念に関する理解	・格差 ・絶対的貧困 ・相対的貧困、相対的剥奪 ・社会的排除 ・ケイパビリティの欠如	各種格差と多様な貧困の概念を整理するとともに、それぞれの特徴と関係性について学ぶ。
2	貧困状態にある人の生活実態と生活環境はどのようになっているのか	・高齢者世帯 ・傷病・障がい者世帯 ・ひとり親（母子）世帯など	なぜ貧困が生じるのか、そして経済的困難さは何をもたらすのかについて、リスターなどの理論を参考にしながら考察する。
3	社会は貧困をどのようにみているのか	・人権と尊厳の尊重 ・自己責任論と社会責任 ・貧困の文化論 ・スティグマ	貧困に対する価値観の変容についてまとめるとともに、人権と尊厳の重要性について再確認する。
4	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか①	・生活保護制度 ・ラストセーフティネット	ラストセーフティネットとして生活保護制度の仕組みと諸問題について、「最低生活の保障」と「自立の助長」の視点から理解する。その際、自立は「経済的自立」「社会的自立」「日常生活自立」など多様な意味があることも理解する。
5	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか②	・生活困窮者自立支援制度 ・第２のセーフティネット	第２のセーフティネットとしての生活困窮者自立支援制度について、「救貧」と「防貧」の視点から課題も含めて理解する。
6	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか③	・生活福祉資金貸付制度 ・公営住宅 ・無料低額診療事業 ・無料低額宿泊所	生活保護制度や生活困窮者自立支援制度以外の貧困に対する施策について、役割と関係性について学ぶ。
7	貧困に対する諸施策にはどのようなものがあるのか④	・ホームレスの自立の支援に関する特別措置法	日本でのホームレスの意味と、対策の一つとしての時限立法である「ホームレスの自立の支援に関する特別措置法」の内容と特徴について学ぶ。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
8	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	・福祉事務所など	福祉事務所などの機能と現業員および査察指導員の役割と関係性について整理するとともに、現業員の福祉労働の二重性についても学ぶ。
9	「自立」と「自律」の視点から貧困に対する支援に考える。	・自立（就労自立・日常生活自立・社会生活自立） ・自律	「自立・自律」を支援するとは何か、ここでは「自立」と「自律」の相違と関係性を踏まえつつ、それぞれの支援の特徴について学ぶ。
10	生活保護制度を活用した支援の実際	・相談援助活動 ・自立支援プログラム	自らの実践のなかから生活保護における相談支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する（経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること）。
11	生活困窮者自立支援制度を活用した支援の実際	・自立相談支援機関 ・必須事業と任意事業	自らの実践のなかから生活困窮者自立支援制度における自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する（経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること）。
12	低所得者に対する支援の実際	・生活福祉資金貸付制度 ・公営住宅 ・無料低額診療事業 ・無料低額宿泊所	自らの実践のなかからたとえば、新型コロナウイルス感染症拡大により脚光を浴びた生活福祉資金貸付制度を通じた自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する（経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること）。
13	住居不安定者・ホームレスの自立支援の実際	・ホームレスの定義 ・ホームレスの実態に関する全国調査	自らの実践のなかから生活不安定者・ホームレスに対する自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する（経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること）。
14	精神障害者に対する支援の実際	・社会生活適応訓練事業	自らの実践のなかから精神障がい者に対する自立支援の実例を挙げ、支援の構造と問題点について考察する（経験的事例がなければ、文献を参照してまとめること）。
15	多機関・多職種などの連携の重要性	・多機関・多職種 ・住民、企業との連携 ・地域づくり ・参加の場（居場所）づくり	まとめとして、貧困支援として多機関・多職種の連携の重要性を学ぶ。また、格差の意味や多様化する貧困概念の拡大を踏まえ、現行の支援の諸施策の概要と対応の限界について述べなさい（「レポート課題」の課題1に相当）。

■スクーリング事前課題（学修時間目安：35時間以上）

1)「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、それぞれにまとめる（対面の演習の1週間前に提出）。

2)「レポート課題」の課題1について、「アドバイス」の課題1を参考にして、4,000字程度にまとめること（「在宅学修15のポイント」の15に相当。対面の演習の1週間前に提出）。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	戦後日本における貧困の「かたち」がいかに変容したのかについて講義する。受講生は、戦後における貧困の変容について理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	「ポーガムの貧困論」の視点から日本の貧困の実態について講義する。受講生は、その貧困の実態を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	「見える貧困」のみならず「見えにくい貧困」をとらえる視点の在り方について講義する。受講生は、「見えにくい貧困」をとらえる視点を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	「コロナ禍」における貧困・生活困窮者支援の多様化と限界について講義する。受講生は、「コロナ禍」が貧困へ及ぼす影響を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	「自立支援」という政策目標の功罪と「自律」との関係性について講義する。受講生は、自立支援と自立の関係を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド

	授業の内容	授業の方法
6	貧困・生活困窮者支援における「公的支援」と「民間支援」の関係性について講義する。受講生は、「公的支援」と「民間支援」の関係性を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	「高齢者世帯」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践経験に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習
8	「ひとり親世帯」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践経験に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習
9	「傷病・障害者世帯」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践経験に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習
10	「住所不安定者・ホームレス」について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用を、様々な参考文献から見られる事例又は自身の実践に照らし検討する。その際にはグループワークなどを用い、理解を深める。	対面の演習

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題２について、「アドバイス」の課題２を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の１月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■レポート課題

課題１（事前課題の２）	格差の意味や多様化する貧困概念の拡大を踏まえ、現行の支援の諸施策の概要と対応の限界について述べなさい。
課題２（事後課題）	スクーリングにおいて取り上げた貧困・生活困窮者の「世帯」を一つ取り上げ、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の枠組みと支援の際の留意点について述べなさい。

■アドバイス

課題１ アドバイス

格差にはさまざまな格差が存在するが、格差の根底には「貧困・生活困窮」があることを理解するとともに、絶対的貧困から拡大する貧困概念の把握が重要である。その上で、ライスセーフティネット（第３のセーフティネット）に位置づけられる生活保護制度など、重層的な生活支援システムを再整理し、これらシステムの限界についても考察することが肝要である。

課題２ アドバイス

スクーリング（同時双方向または対面の演習）では「高齢者、ひとり親、傷病・障害者、住所不安定・ホームレスなど」の世帯を取り上げ、それぞれの世帯について、制度論及びソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用を、自身の実践に照らし検討した。そのうちの１つの世帯を取り上げて、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の枠組みと支援の際の留意点について自身の考えを述べること。

■評価の方法・基準

・事前課題レポート（15%×２）
・全スクーリング（50%）
・事後課題レポート（20%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

１）朝比奈ミカ、菊池馨実『地域を変えるソーシャルワーカー（岩波ブックレット）』岩波書店、2021年
２）阿部裕二監修『ケアマネ、生活相談員、生活支援員のための社会保障制度がわかる本』ナツメ社、2021年
３）伊藤秀一責任編集『貧困に対する支援』弘文堂、2022年

4）岩田正美『貧困の戦後史ー貧困の「かたち」はどう変わったのか』筑摩書房、2017年
＊5）金子充『入門　貧困論』明石書房、2017年
6）酒井正『日本のセーフティネット格差ー労働市場の変容と社会保障ー』慶應義塾大学出版会、2020年
7）佐藤康仁、熊沢由美『~~新版~~　格差社会論（第3版）』同文舘、2023年
8）「貧困研究」編集委員会編『貧困研究』（各号）明石書房
＊9）椋野美智子編『福祉政策とソーシャルワークをつなぐ』ミネルヴァ書房、2021年

2023～ 社会福祉法制・権利擁護研究	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	菅原 好秀	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

社会福祉に関する法律と制度、権利擁護に関する研究

■授業の目的

1）福祉サービス、社会保障制度にかかる法的な構造を理解することを目的とする。
2）利用者の法的な権利を擁護し、権利侵害に対処・防止する実践力の基礎を確立させることを目的とする。
3）社会福祉制度と法の修得を通じて、主に人間理解力と問題解決力について理解を深めることを目的とする。

■授業の到達目標

1）社会福祉サービス・社会保障制度の利用にかかる法的な構造について説明できる。
2）典型的な法的権利侵害場面に対して、利用者の法的権利の侵害を防止・回復する方法について説明できる。
3）法と福祉分野に関する高度な専門的知識を修得することができる。
4）現代社会における多様な問題を的確に分析し、説得力のある法的議論を展開する能力を修得することができる。
5）先行研究、外国文献等の必要な資料を渉猟し、学術的な意義のある論文を作成するための基礎的な研究能力を修得することができる。
6）所定の年限に修士に価する論文を作成することができる。

■授業の概要

1）法的構造については、権利の概念、社会正義、倫理、民法（能力、契約、後見）、行政法（行政処分、不服申立）について研究していきます。
2）権利擁護に関する法律については、消費者保護の制度、虐待防止法、障害者の権利に関する条約、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律、子どもの権利条約について研究していきます。
3）少年については、少年法・少年審判、家庭裁判所等裁判所及び裁判に関して、研究していきます。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	権利擁護に必要な法制度	権利の概念、社会正義、倫理	権利の概念、権利擁護の意義、社会正義、倫理の概念について学修する。
2	ソーシャルワークと民法との関わり	民法（能力、契約）	権利能力、意思能力、行為能力、債務不履行、契約不適合責任について学修する。
3	成年後見制度について	後見・保佐・補助	成年後見制度における後見の概要、保佐の概要、補助の概要について学修する。
4	ソーシャルワークと行政との関わり	行政処分、不服申立	行政の行為形式（行政処分）、行政救済制度（行政不服申立て、行政訴訟）について学修する。
5	消費者保護の制度について	消費者契約法、クーリングオフ	消費者被害支援事例について学修する。
6	虐待防止法について	高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法、DV 防止法	虐待防止法・暴力防止関係法の概要について学修する。
7	障害者の権利に関する条約について	合理的配慮、医学モデル、社会モデル	障害者権利条約と意思決定支援について学修する。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
8	障害者差別解消法について	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律	障害を理由とする不当な差別的取扱いと考えられる例と合理的配慮と考えられる例、障害特性に応じた対応について学修する。
9	子どもの権利条約について	生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利	子どもの権利条約における「4つの原則」について学修する。
10	少年法・少年審判について	非行少年、保護観察	非行少年の対応事例を学修する。
11	非行少年と家庭裁判所の役割について	保護処分、家庭裁判所調査官、少年院	非行少年の保護事件の審判手続について学修する。
12	認知症高齢者への権利擁護に関する支援について	地域包括支援センター、日常生活自立支援事業	認知症高齢者の具体的事例を分析、検討し、その積み重ねを通して帰納的に一般的な論理の探究をする。
13	法的権利侵害とその対処事例について	個人支援の限界、公的支援の種類	法的権利侵害の事例研究を通じて、権利擁護に関わる専門職の役割と現状について学修する。
14	意思決定支援の事例研究について	意思形成支援、意思表明支援、意思実現支援、最善の利益	意思決定ガイドラインにおける事例研究を本人の最善の利益の視点から学修する。
15	成年後見事例について	成年後見制度、任意後見制度	本人の意思決定支援と権利擁護の視点から学修する。まとめとして、利用者の法的な権利を擁護し、権利侵害に対処・防止する支援モデルを考える。(「レポート課題」の課題1に相当)

■スクーリング事前課題(学修時間目安:35時間以上)

1)「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、それぞれにまとめる(同時双方向または対面の演習の1週間前に提出)。

2)「レポート課題」の課題1について、「アドバイス」の課題1を参考にして、4,000字程度にまとめること(「在宅学修15のポイント」の15に相当。同時双方向または対面の演習の1週間前に提出)。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	権利の概念、権利擁護の意義、社会正義、倫理の概念について講義する。受講生は、権利擁護の本質を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	成年後見制度における後見の概要、保佐の概要、補助の概要について講義する。受講生は、成年後見制度を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法、DV防止法について講義をする。受講生は、虐待防止法を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	行政の行為形式(行政処分)、行政救済制度(行政不服申立て、行政訴訟)について講義する。受講生は、行政救済制度を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	消費者保護の制度における消費者契約法、クーリングオフについて講義する。受講生は、消費者保護を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	非行少年、保護観察について講義する。受講生は、非行少年における保護観察を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	障害を理由とする不当な差別的取扱いと考えられる例と合理的配慮と考えられる例、障害特性に応じた対応について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
8	法的権利侵害の事例研究を通じて、権利擁護に関わる専門職の役割と現状について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
9	意思決定ガイドラインにおける事例研究を本人の最善の利益の視点について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習

	授業の内容	授業の方法
10	成年後見事例における後見事例、保佐事例、補助事例について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題２について、「アドバイス」の課題２を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の１月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■レポート課題

課題 1（事前課題の２）	利用者の法的な権利を擁護し、権利侵害に対処・防止する支援モデルを考える。
課題 2（事後課題）	成年後見制度における後見事例・保佐事例・補助事例をそれぞれ挙げて、権利侵害に対処・防止する支援モデルを、本人の意思決定支援を踏まえて具体的に論じなさい。

■アドバイス

課題 1 アドバイス

「在宅学修15のポイント」を参考に、権利擁護、成年後見制度（後見・保佐・補助）、消費者保護制度、意思決定支援制度、虐待防止法の制度の概要を確認しておいてください。ソーシャルワークに関する法的な基礎知識を確認し、ソーシャルワークによる法的支援の実際について、事例研究などを通じて、具体的な法的な対応ができるように学修してください。

課題 2 アドバイス

成年後見制度における後見事例・保佐事例・補助事例をそれぞれ挙げて、①本人の状況、②支援経過、③考察に分けて、法的支援による権利侵害に対処・防止する支援モデルを、意思決定支援を踏まえて具体的に論じてください。

■評価の方法・基準

１）事前課題レポート（15%×２）
２）全スクーリング（50%）
３）事後課題レポート（20%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊１）菅原好秀著『権利擁護と法』(建帛社) 2022年
２）菅原好秀著『リスクマネジメントと法』(建帛社) 2020年
３）菅原好秀編著『福祉ライブラリー　福祉法学　第２版』(建帛社) 2020年

2023～ 子ども・家庭と女性福祉研究	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	竹之内　章代	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

子ども・家庭・女性の社会的課題について、歴史や社会福祉の理論やアプローチ等を踏まえ、ソーシャルワークの視点から考察する

■授業の目的

児童及びその家族の支援に関して、各種の基礎理論及びソーシャルワーク理論に基づくアプローチの方法等を学習し、実践に活用できるようにする。

■授業の到達目標

・理論の成り立ち、主要概念、方法論等について説明できる。
・理論・アプローチを踏まえて、自身の実践の省察、評価し、実践の改善課題等について説明できる。

■授業の概要

子どもの抱える課題は、おとなやおとな社会の縮図であり、子どもそのものの問題というよりも、その環境との関連で理解する必要がある。子どもに対する福祉は、社会福祉の歴史でも早くから対応の必要がいわれていた分野でもある。しかしながら、子どもを一人の人格を持った存在として「権利主体」として捉えられるようになるまでの歴史はまだ浅い。それらの歴史的経緯、社会や時代などの環境の変化は、子どもたちの福祉的課題に影響を及ぼしている。それらの考察をしつつ、現代的な課題について理解する。さらに、子どもを取り巻く環境である、家族や未だ子育ての主体者とされる女性にも焦点をあてて、課題を考察していきたい。

子どもや家庭、女性が政策的な課題としても取り上げられている現在、その中でソーシャルワークを展開する意義やその役割について考えるとともに、ともすれば「家庭生活」、いわゆる「家事」「育児」「介護」などの問題は固定的な性別役割分業に未だに縛られており、それが福祉現場においてもだれでもできる仕事とされがちであることから「福祉労働」や「専門性」についても、再考していきたい。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	子ども家庭福祉の理念と考えかた	子どもにとっての生存権、子どもと環境	児童福祉から子ども家庭福祉となった転換点について学習する。子どもを理解するため発達心理などの理論を通じて学習する
2	子ども家庭福祉の歴史1	児童救済、小さなおとな	子ども家庭福祉のかかわりが「児童救済」から始まった歴史的経緯を学習する。
3	子ども家庭福祉の歴史2	児童保護、子どもの救済の最優先	「児童救済」から「児童保護」に子どもの福祉的観点が変化したことや戦争時の子どもたちのおかれた状況について学習する。
4	子ども家庭福祉の歴史3	子どもの権利、子どもの最善の利益	子どもの権利について、第二次世界大戦後から「子どもの権利条約」制定、それ以降の子どものとらえ方を学習する。
5	女性福祉の歴史1	近代以前の女性の権利、	女性の権利がどのような変遷を遂げてきたのかを

		近代以降の女性の権利、廃娼運動	近代以前とそれ以降の状況について「売買春」を軸に理解する。
6	女性福祉の歴史２	売春防止法の制定、女性の権利、ジェンダー	戦後、売春防止法の制定までの歴史を学習するとともに、福祉がどのようにかかわってきたかを学習する。
7	女性福祉の現代的課題	DV、売買春、母子の貧困、「困難問題を抱える女性への支援に関する法律」	家庭内暴力、現代の売買春、母子家庭の貧困など現代的な女性福祉にかかわる課題について福祉とのかかわりで学習する。
8	子ども家庭福祉の制 度と実施体制	児童福祉六法、実施体制	日本における子ども家庭福祉にかかわる法制度、サービス、実施主体、実施体制について学習する。
9	子ども家庭福祉にか かわる専門職	福祉、保健/ 医療、心理、教育、労働との関連	実際にどのような専門職が子どもや家庭に対してかかわり、どのような連携が行われているのかを学習する。福祉専門職としてのかかわりの視点を理解する。
10	子ども家庭福祉の分野１	子ども・子育て支援、保育	キーワードとなっている子ども家庭福祉の分野について、事例等を通して、ソーシャルワークの視点を支援について学習する。
11	子ども家庭福祉の分野２	障がいがある子どもと家庭、母子保健	キーワードとなっている子ども家庭福祉の分野について、事例等を通して、ソーシャルワークの視点を支援について学習する。
12	子ども家庭福祉の分野３	社会的養護、虐待	キーワードとなっている子ども家庭福祉の分野について、事例等を通して、ソーシャルワークの視点を支援について学習する。
13	子ども家庭福祉の分野４	ひとり親家庭、子どもの貧困	キーワードとなっている子ども家庭福祉の分野について、事例等を通して、ソーシャルワークの視点を支援について学習する。
14	子ども家庭福祉の課題	子どもと環境、ソーシャルワークの視点	子どもを取り巻く環境を総括し、あらためてソーシャルワークの視点での支援のあり方や福祉専門職としての役割について再確認を行う。
15	まとめ		子ども家庭福祉や女性福祉をソーシャルワークとの関連で整理し、研究課題を考える。 まとめとして、社会福祉の歴史的な展開を踏まえ、児童救済、児童保護、児童の人権と発展してきた歴史について概観したうえで『子ども家庭福祉』の今日的課題をとりあげて、考察しなさい（あるいは、女性福祉の史的展開を踏まえ、女性福祉の今日的課題を取り上げて、考察しなさい）。（「レポート課題」の課題１に相当）

■スクーリング事前課題（学修時間目安：35 時間以上）

1）「在宅学修 15 のポイント」の 1～14 までを学修し、それぞれにまとめる（対面の演習の 1 週間前に提出）。

2）「レポート課題」の課題 1 について、「アドバイス」の課題 1 を参考にして、4,000 字程度にまとめること

（「在宅学修 15 のポイント」の 15 に相当。対面の演習の 1 週間前に提出）。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	子ども家庭福祉の理念について講義する。受講生は、子ども家庭福祉の理念を学び、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	子ども家庭福祉の史的展開について講義する。受講生は、子ども家庭福祉の史的展開学び、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	（2 回に続き）子ども家庭福祉の史的展開について講義する。受講生は、子ども家庭福祉の史的展開学び、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	女性福祉の史的展開について講義する。受講生は、女性福祉の史的展開学び、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	子ども家庭福祉及び女性福祉に関するソーシャルワークの理論やモデル、アプローチについて講義する。受講生は、その理論やモデル、アプローチを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	（5 回に続き）子ども家庭福祉及び女性福祉に関するソーシャルワークの理論やモデル、アプローチについて講義する。受講生は、その理論やモデル、アプローチを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	子ども家庭福祉の分野における子育て支援、保育について、理論や支援アプローチを用いた事例研究を行う。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
8	子ども家庭福祉の分野における障がいがある子どもへの支援と母子保健について、理論や支援アプローチを用いた事例研究を行う。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
9	子ども家庭福祉の分野における虐待と社会的養護について、理論や支援アプローチを用いた事例研究を行う。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
10	子ども家庭福祉の分野におけるひとり親家庭と子どもの貧困について、理論や支援アプローチを用いた事例研究を行う。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30 時間以上）

「レポート課題」の課題 2 について、「アドバイス」の課題 2 を参考にして、4,000 字程度にまとめること（受講した年度の 1 月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■レポート課題

課題 1 （事前課題の 2）	社会福祉の歴史的な展開を踏まえ、児童救済、児童保護、児童の人権と発展してきた歴史について概観したうえで、「子ども家庭福祉」の今日的課題をとりあげて、考察しなさい。（あるいは、女性福祉の史的展開を踏まえ、女性福祉の今日的課題を取り上げて、考察しなさい。）
課題 2 （事後課題）	子ども家庭福祉と女性福祉における分野を一つとりあげて、社会福祉専門職の役割と意義の課題について論じなさい。

■アドバイス

（課題 1）

社会福祉の歴史的な展開の理解と、子どもが歴史的にどのような存在であったのかを「権利」という切り口で学習してみてください。また、女性福祉に関心のある方は「売春防止法」が制定されるまでの廃娼の歴史と「困難問題を抱える女性への支援に関する法律」までの流れを踏まえて考えると良いでしょう。

（課題２）

子ども家庭福祉や女性福祉の実践にかかわっている方は、自身の実践体験も踏まえて、考えてみると良いと思います。また、実践にかかわっていない方は、参考文献などの事例からどのような課題があるかを整理してみましょう。

■評価の方法・基準

・事前課題レポート（15%×2）
・全スクーリング（50%）
・事後課題レポート（20%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊１）山縣文治著『子ども家庭福祉論』ミネルヴァ書房、2018 年
＊２）杉本貴代栄編著『女性学入門－ジェンダーで社会と人生を考える　改訂版』ミネルヴァ書房、2018 年
３）柏女霊峰著『これからの子ども・子育て支援を考える』ミネルヴァ書房、2017 年
4）日本弁護士連合会子どもの権利委員会編『子どもの権利ガイドブック（第２ 版)』明石書店、2017 年
５）松本伊智郎編『「子どもの貧困」を問い直す－家族・ジェンダーの視点から』法律文化社、2017 年
６）児玉勇二『子どもの権利と人権保障－いじめ・障がい・非行・虐待事件の弁護活動から』明石書店、2015 年
７）林千代編『婦人保護事業 50 年』ドメス出版、2008 年
８）森田ゆり『子どもと暴力』岩波書店、1999 年
９）子どもの貧困白書編集委員会編『子どもの貧困白書』明石書店、2000 年
10）荒巻重人ほか編『外国人の子ども白書』明石書店、2017 年
11）相沢仁ほか『やさしくわかる社会的養護シリーズ１ ～ ７ 』明石書店、2014 年
12）滝川一廣ほか編『子どもの心をはぐくむ生活』東京大学出版会、2016 年
13）宮本みち子編『すべての若者が活きられる未来を』岩波書店、2015 年
14）宮本みち子編『下層化する女性たち』勁草書房、2015 年
15）日本弁護士連合会編『女性と労働』旬報社、2011 年
16）施設で育った子どもたちの語り編集委員会編『施設で育った子どもたちの語り』明石書店、2012 年
17）須藤八千代編『母子寮と母子生活施設のあいだ』明石書店、2007 年
18）日本子どもを守る会編『子ども白書』本の泉社　各年版、日本婦人団体連合会『女性白書』ほるぷ社各年版など

2023～ 高齢者福祉研究Ⅰ	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	石附　敬	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

老いの諸相と高齢者支援の課題

■授業の目的

1）社会老年学（social gerontology）を中心とした老いに関する諸理論、超高齢社会の課題について学ぶこと。

2）高齢者の生活を支える地域包括ケアシステムの理論と課題について学ぶこと。

■授業の到達目標

1）老いに関する諸理論について理解し、身近な事例を題材に検討することができる。

2）超高齢社会の課題について、考えを述べることができる。

3）地域包括ケアシステムの理論と課題について述べることができる。

■授業の概要

日本の老年人口比率は29%を超え、４人に１人が高齢者となり、さらに男女ともに多くの人が人生80年以上を享受できる時代となった。一方で、家族機能の脆弱化、高齢者のみ世帯の増加など、高齢者を取り巻く環境は厳しさを増している。今後、人々が安心して高齢期を迎えることができるために、何が必要なのか？

本講義では、①まず初めに、社会老年学を中心とした老いに関する諸理論の学びを通じて、幸せに老いるためには何が重要なのかについて、身近な事例も活用して考えていく。②次に、人々がそれぞれ相応しい場所で老いていく（aging in place）ことを支える、地域包括ケアシステムの理論と現状について学ぶ。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	老年学とは	老年学の定義、テキストの構成	老年学はどのような学問であるか学ぶ。【テキスト１）の序章】
2	老年学の研究方法	実証研究のプロセス、文献レビュー、量的・質的研究	老年学の研究方法について学ぶ。【テキスト１）の第１章】
3	老いと社会	老年社会学の理論、高齢期の社会関係、エイジズム、社会参加	老年社会学の理論と、高齢期の社会関係について学び、高齢者や家族への支援との関連性について考察する。【テキスト１）の第４章】
4	老いと健康	老化と寿命、老化にともなう身体の変化、高齢期の傷病	老化にともなう身体の変化、高齢期の傷病の特徴について学び、高齢者や家族への支援との関連性について考察する。【テキスト１）の第２章】
5	老いと心理	生涯発達、感覚、記憶、孤独、コミュニケーション	老化と障害発達、感情と孤独、について学び、高齢者や家族への支援との関連性について考察する。【テキスト１）の第３章】
6	高齢者と家族への支援、死生学	高齢者と家族を支える制度、福祉の実践方法、死生学	高齢者と家族を支える制度と支援方法について学ぶ。【テキスト１）の第５、６章】

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
7	事例検討①	オーラルヒストリー	あなたが幸福だと思う身近な高齢者に、幼いころから今までの人生について話を聴いてみてください。そして、老いの諸理論を用いて、その方がなぜ幸福でいるのか、高齢者やその家族への支援を展開する上での視点について考察してください。身近に対象者がいない場合は、高齢者の人生が書かれた書籍を読んで考察してください。
8	事例検討②	オーラルヒストリー	つづき
9	地域包括ケアシステムの背景	日本の現状と背景	地域包括ケアシステムに関して、日本の現状と背景について学ぶ。【テキスト２）第１章】
10	地域包括ケアをめぐる議論①	integrated care、定義	地域包括ケアの重要な理論であるintegrated careとチームアプローチについて学ぶ。【テキスト２）第２章１節】
11	地域包括ケアをめぐる議論②	2006年モデル、2012年モデル	日本における地域包括ケアシステムの変遷についてまとめてください。【テキスト２）第２章２節】
12	地域包括ケアシステム構築の方法①	諸外国の例	諸外国の例を基に、地域包括ケアシステム構築の方法について学ぶ。【テキスト２）第３章１節】
13	地域包括ケアシステム構築の方法②	日本の例	日本の例を基に、地域包括ケアシステム構築の方法について学ぶ。【テキスト２）第３章２節】
14	地域包括ケアシステムの課題①	認知症高齢者の在宅支援	地域包括ケアシステムの課題について学ぶ。【テキスト２）第４章１節】
15	地域包括ケアシステムの課題②	ケアマネジメント、評価体制	地域包括ケアシステムの課題について学ぶ。（つづき）まとめとして、あなたが幸福だと思う身近な高齢者の人生を事例として、その方がなぜ幸せな老後を過ごしているのか、老いの諸理論、ソーシャルワーク理論・アプローチを用いて考察する（「レポート課題」の課題１に相当）。【テキスト２）第４章２～３節】

■スクーリング事前課題（学修時間目安：35時間以上）

１)「在宅学修15のポイント」の１～14までを学修し、その内容をA4 3枚程度にまとめる（対面の演習の１週間前に提出）。

２)「レポート課題」の課題１について、「アドバイス」の課題１を参考にして、4,000字程度にまとめること（「在宅学修15のポイント」の15に相当。対面の演習の１週間前に提出）。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	本科目の概要、学修の進め方、事例研究の方法について共通理解を図る。受講生は、本科目の概要等を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	日本の社会の高齢化の現状と諸課題について講義する。受講生は、日本の社会の高齢化の現状と諸課題を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	老年社会学の理論、高齢期の社会関係、高齢期の諸課題について講義をする。受講生は、老年社会学の理論、高齢期の社会関係、高齢期の諸課題を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	老いの総合的理解、オーラルヒストリーを基にして講義する。受講生は、老いの総合的理解、オーラルヒストリーを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	高齢者保健福祉の発展過程について講義する。受講生は、高齢者保健福祉の発展過程を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	地域包括ケアシステムとその課題について講義する。受講生は、地域包括ケアシステムとその課題を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	各自取り組んだオーラルヒストリーを素材にした対象高齢者の事例を基に、老いの諸理論、ソーシャルワーク理論・アプローチを活用した考察、高齢者と家族への支援の課題について発表、グループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
8	（７回に続き）各自取り組んだオーラルヒストリーを素材に対象利用者の事例を基に、老いの諸理論、ソーシャルワーク理論・アプローチを活用した考察、高齢者と家族への支援の課題について発表、グループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習

	授業の内容	授業の方法
9	各自の居住地域の地域包括ケアシステムの現状と課題について統合理論とチームアプローチに関連付けた考察を基に、発表とグループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
10	（9回に続き）各自の居住地域の地域包括ケアシステムの現状と課題について統合理論とチームアプローチに関連付けた考察を基に、発表とグループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■レポート課題

課題1（事前課題の2）	あなたが幸福だと思う身近な高齢者の人生を事例として、その方がなぜ幸せな老後を過ごしているのか、老いの諸理論を用いて考察してください。
課題2（事後課題）	地域包括ケアシステムとは何か。そして、日本に導入された背景と、これまでの変遷について述べなさい。

■アドバイス

課題1 アドバイス

高齢者（できれば後期高齢者が望ましい）に、その方の幼少期から高齢期までの人生を何回かに分けて（1回当たり1時間以内）聴いてみてください。ポイントはあなたの質問に対して、自由に語っていただくことです。聴きとった内容をもとに、その方の人生をオーラルヒストリーとしてまとめてください（これは提出の必要はありません）。これを事例として、レポートではオーラルヒストリーを簡潔にまとめて、老いの諸理論を活用して考察を述べてください。文中では個人が特定できないよう、仮名やアルファベット表記などで匿名としてください。該当する協力者が得られない場合は、高齢者の人生について書かれた書籍を事例として使用してください。

課題2 アドバイス

テキスト2）を丁寧に読んで、要点をまとめてください。また、厚生労働省のＨＰや参考文献で提示した特集論文なども参考にすると良いでしょう。

■評価の方法・基準

・事前課題レポート（15%×2）
・全スクーリング（50%）
・事後課題レポート（20%）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）杉澤秀博、長田久雄、渡辺修一郎、中谷陽明編著『老年学を学ぶ　高齢社会の学際的研究』桜美林大学出版会、2021年
＊2）筒井孝子著『地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略』中央法規、2014年
3）Robert C. Atcheley & Amanda S. Barusch (2004) Social Forces and Aging: An Introduction to Social Gerontology 10th ed. Thomson Learning. (= 2005, 宮内康二編訳『ジェロントロジー～加齢の力学～』きんざい.)
4）「特集　地域包括ケアシステムの構築と深化；課題と展望」『老年社会科学』39巻4号、p.415-459、日本老年社会科学会、2017年

2023～ 高齢者福祉研究Ⅱ（認知症ケア研究）	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	加藤　伸司	

■授業のテーマ

加齢に伴って起こる心理学的変化、認知症の原因疾患と心理的特徴、パーソンセンタードケアの基本的な考え方、介護家族の特徴と支援の在り方を理解する。また認知症のアセスメント技法を学び、その効用や限界について理解する。

■授業の目的

社会福祉及び福祉心理学領域における高齢者支援の実際を社会福祉及び心理学の視点から理解し、アセスメントや援助技法などを修得する。

■授業の到達目標

・高齢者心理学及び近接領域のこれまでの研究成果を理解し、エビデンスに基づく理論的な考え方を説明できる。
・認知症のアセスメントの技法を理解し、認知症の人を対象にした簡便なアセスメント技法を習得し、応用できる。
・認知症の人に対するケアの理念であるパーソンセンタードケアの考え方を理解し、説明できる。
・認知症の人および介護家族の思いを理解し、支援に役立てることができる。

■授業の概要

高齢者心理学及び近接領域で取り組んできた課題について基本的な理解を深める。具体的には「感覚・知覚機能の変化」「反応の変化」「注意の変化」「記憶の変化」「知的機能の変化」などの心理学的変化を系統的に学び、高齢者に対する心理学的な理解を深めていく。これらのテーマを基本的に理解したうえで、認知症の原因疾患別の特徴と、認知症ケアの理念であるパーソンセンタードケアの考え方を学び、支援にあたっての基本姿勢を身に着ける。さらに認知症のアセスメント技法について学び、アセスメントの実施方法だけではなく、結果の考え方を理解し、実際に応用できる知識を習得する。最後に認知症の当事者と介護家族の思いを理解し、当事者や家族の視点に立った支援につなげることができるようになる。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	感覚・知覚機能に及ぼす加齢の影響	視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚。	テキスト1を参考に感覚や知覚に及ぼす加齢の影響について学ぶ。
2	反応時間や反応の種類に及ぼす加齢の影響	単純反応、選択反応、反応エラー	テキスト1を参考に反応時間や反応の種類の変化について学ぶ。
3	注意の変化	持続注意、分割注意	テキスト1を参考に加齢が注意にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。
4	記憶に及ぼす加齢の影響	記憶のモデル、記憶の種類、加齢。	テキスト1を参考に加齢が記憶機能にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。
5	知的機能に及ぼす加齢の影響	知能低下、流動性知能、結晶性知能、終末低下。	テキスト1を参考に加齢が知的機能にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。

6	加齢に伴う心理学的変化	加齢に伴う心理学的変化	１～５で学んだことをスクーリングのオンデマンド授業を視聴して理解を深める。
7	認知症の実態	出現率、MCI	認知症の出現率、正常加齢と MCI の相違について学ぶ。
8	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴①	アルツハイマー型認知症	テキスト２を参考にアルツハイマー型認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。（レポート課題１）
9	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴②	血管性認知症	テキスト２を参考に血管性認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。（レポート課題１）
10	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴③	レビー小体型認知症	テキスト２を参考にレビー小体型認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。（レポート課題１）
11	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴④	前頭側頭型認知症	テキスト２を参考に前頭側頭型認知症の原因と臨床的特徴について学ぶ。（レポート課題１）
12	認知症の症状の理解とパーソンセンタードケアの理解	中核症状、BPSD、パーソンセンタードケア	テキスト２を参考に中核症状と BPSD、パーソンセンタードケアの基本的考え方についてスクーリングで学ぶ。
13	認知症のアセスメント	HDS-R、MMSE、行動評価尺度。	テキスト２，３を参考に認知症のアセスメントについてスクーリングで学ぶ。（レポート課題２）
14	認知症高齢者の介護家族の理解と支援	介護家族、家族支援	介護家族の状況とストレス、具体的な支援方法についてスクーリングで学ぶ。
15	認知症の人と当事者に学ぶ	心理的状況、支援者への望み。	スクーリング時に当事者と家族の映像を視聴し、当事者と家族を理解する。

■スクーリング事前課題（学修時間目安：２４時間以上）

・事前課題は、学修テーマ８～１２の内容を学習し、まとめる。
・スクーリングのオンデマンド授業は、対面・リモート授業日の１カ月前から配信する。
・スクーリングのオンデマンド授業及び対面 or リモート授業にあたっては、事前に資料を作成するので、各自がダウンロードしてスクーリングに臨む。
・スクーリングの５～6 のオンデマンド授業を視聴し、参考にする。
・レポート課題１は、スクーリングの７の対面・リモート授業の日までに提出する。
・レポートは、4000 字程度でまとめ、レポートの最後に（4025 字）のように記載する。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	感覚・知覚機能に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
2	反応時間や反応の種類、注意に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
3	記憶に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
4	知的機能に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
5	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴①	オンデマンド
6	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴②	オンデマンド
7	認知症の人の症状の理解とパーソンセンタードケアの理解	対面 or リモート
8	認知症のアセスメント	対面 or リモート
9	認知症高齢者の介護家族の理解と支援	対面 or リモート

10	認知症の人と当事者に学ぶ	対面 or リモート

■スクーリング事後課題（学修時間目安：６時間）

・事後課題は、学修テーマ１３及びスクーリング授業計画８（対面 or レポート）の内容を学習し、まとめる。

・レポート課題２は、スクーリング終了後１カ月以内に提出すること。

・レポートは、4000 字程度でまとめ、レポートの最後に（4025 字）のように記載する。

■レポート課題

課題 1 （事前課題）	認知症の原因疾患について、興味のあるものを１つ選び、その原因と臨床的特徴などについて触れ、認知症の人に対する心理的支援について自分の意見を交えて考察する。
課題 2 （事後課題）	認知症のアセスメント技法について、自分の興味のあるものを選択し、その使用目的、使用方法、結果の判定方法についてまとめ、自分自身の意見を交えて考察する。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

（課題 1）

学修テーマ８～１１の内容及びスクーリング授業の５，６のオンデマンド授業を参考にまとめる。出現頻度が最も高いのはアルツハイマー型認知症、次いで血管性認知症の順になるが、近年ではレビー小体型認知症も増えており、前頭側頭型認知症は若年期に発症することも多く、対応に苦慮する認知症である。この４つの認知症の中から興味のあるものを１つ選択し、レポートをまとめる。原因と臨床的特徴をまとめるだけではなく、その疾患に対する心理的な支援の在り方についてまとめる。資料やテキストを参考にまとめるが、必ず自分自身の考え方や意見を取り入れて考察することが大切である。

（課題２）

学修テーマ８～１１の内容及びスクーリング授業の５，６のオンデマンド授業を参考にまとめる。スクーリングでは、HDS-R を中心に解説するが、MMSE や他のアセスメントをテーマに取り上げても良い。アセスメントの使用目的、使用方法、結果の判定方法についてまとめるだけではなく、必ずそのアセスメントに対する自分自身の感じたことや意見を交えて考察することが大切である。

■評価の方法・基準

・スクーリング参加とスクーリングの事前・事後課題を合わせて評価する。

・スクーリングの参加度と積極性４０％。

・事前レポート３０％、事後レポート３０％。

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊１）加藤伸司編著　『発達と老化の理解』　介護福祉士養成テキストブック 10　ミネルヴァ書房 2010　←

＊２）加藤伸司著　『認知症の人を知る』　ワールドプランニング社 2014

＊３）大塚俊男・本間昭監修『高齢者のための知的機能検査の手引き』ワールドプランニング社 2016

４）認知症ケア学会編『認知症ケア標準テキスト　Ⅰ認知症ケアの基礎』ワールドプランニング社

５）加藤伸司・長谷川和夫著『改訂長谷川式簡易知能評価スケールの手引き』中央法規 2020

2023～ 障害者福祉研究Ⅰ	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	三浦　剛	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

ソーシャルワーク理論に基づく「障害者福祉（障害者支援）」研究

■授業の目的

ソーシャルワークの視点から障害者福祉を整理検討し、ソーシャルワーク理論に基づくアプローチの方法を学び、実践活用にも結びつけられるようになることを目的とする。

■授業の到達目標

・ソーシャルワークの枠組みを理解し、障害者福祉領域での諸問題を解決するための研究方法を修得する。
・基礎的なソーシャルワーク研究方法を習得し、障害者福祉研究のデザインをすることができる。

■授業の概要

「障害者福祉」とは障害がある方への支援施策の全体をさすことばとして使われてきたが、その一領域であるソーシャルワークは、この分野で未だに明確な固有性を示せていない。ここではソーシャルワークの視点からその歴史的展開や理念についてとらえ直し、障害がある人にかかわるソーシャルワークの意味と価値を考える。つぎにソーシャルワーク理論からそのアプローチについて分析、検討し、ソーシャルワーク・モデルを開発する。その枠組みからこれまでの施設入所などの支援を分析し、その方法、技術について再考する。

障害がある人たちへのソーシャルワークのもう一つの課題として、重度の障がいがある人をどうとらえるかがある。アドボカシー、意思決定支援と社会貢献の視点から、実践活用にも結びつくように、直接的支援のあり方や質に関する議論も進めていきたい。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	生活困窮と障害	遺棄、虐待、働けない貧民、生存権	生存権の確認(20世紀初頭）までの障害がある人のおかれた環境について学修する
2	人権と障害	人権思想 リハビリテーション	人権思想の興りから第二次大戦後までの展開について学修する
3	保護偏重の施策について	大規模施設、コロニー、分離処遇など	北欧やアメリカでの施設の大規模化、保護偏重化への過程を分析し、学修する
4	ノーマライゼーションの理念	1959年法 脱施設、施設解体	保護偏重に対するノーマライゼーション理念の興りとアメリカでの展開について学修する
5	「自立」概念の拡大	IL運動、消費者主義	IL (independent living)運動が自立の概念を拡大していく過程を学修し、障害学への展開にも触れる。
6	地域支援と契約制度について	社会福祉法、契約制度、応益負担	日本を中心に近年の制度動向についてキーワードを中心に学ぶ
7	ソーシャルワークの歴史	社会問題、ケースワーク	障がいの問題を社会問題ととらえ、人と環境の相互作用を視点にソーシャルワークとの関連性を学ぶ

8	ソーシャルワークの枠組み	生態学的視点、生活モデル、環境調整、エンパワメント	ソーシャルワークの視点、モデル、アプローチについて学び、ICF との親和性を中心に、障害者支援におけるソーシャルワークの意味を知る
9	ソーシャルワークの視点について(エンパワメント、アドボカシーの概念)	アドボカシー、エンパワメント、ストレングス	近年、障害者福祉の中心的な概念となったアドボカシーとエンパワメント、ストレングスについて学ぶ
10	ソーシャルワークの展開について(1)	ミクロ・レベルからマクロ・レベルへの連続体、生物・心理・社会モデル、障害受容、家族支援、SST、認知行動療法など	人と環境との相互作用が、個人、家族、地域、制度などのレベルへ連続していることと、その支援展開の実際を学ぶ。
11	ソーシャルワークの展開について(2)	社会資源開発、ネットワーク形成、チームアプローチ、コーディネーション	障害がある人の地域支援活動に必要不可欠な、ソーシャルワークの開発機能について、基礎知識、方法を学ぶ
12	ソーシャルワークの展開について(3)	ソーシャル・アクション、ネゴシエイション	開発機能に必要とされる関連技術の基礎知識と方法を学ぶ
13	ソーシャルワークの展開について(4)	ケアマネジメント、障害者相談支援事業	障害者支援の実際をケアマネジメント・プロセスに沿って理解する
14	ソーシャルワーク実践活用へ向けて	事例研究法	ソーシャルワーク実践における障害者支援の実際について事例研究を中心に学び、実践活用の方法を考える。
15	まとめ		ソーシャルワークと障害者支援の関連性を明確にしながら、ソーシャルワークの枠組みを通して障害者支援を再構築してみる。まとめとして、「障害者支援の史的展開を踏まえ、ソーシャルワークとの接点を確認し、障害がある人へのソーシャルワーク・アプローチによる支援モデルを考える」(「レポート課題」の課題 1 に相当)

■**スクーリング事前課題**（学修時間目安：35 時間以上）

1) 「在宅学修 15 のポイント」の 1~14 までを学修し、それぞれにまとめる（同時双方向演習の 1 週間前に提出）。

2) 「レポート課題」の課題 1 について、「アドバイス」の課題 1 を参考にして、4,000 字程度にまとめること（「在宅学修 15 のポイント」の 15 に相当。同時双方向演習の 1 週間前に提出）。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	障害がある人へのかかわりの歴史と障害概念の変遷と近年の到達点(ICF の考え方、差別禁止の方向性、障害学の展開など）について講義する。受講生はその歴史と障害概念を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	障害者支援におけるソーシャルワーク・アプローチの起源について及びソーシャルワークの理論と枠組み（生態学的視点、生活モデル、一般システム理論など）について講義する。受講生はソーシャルワークの歴史的展開を理解し、その起源と障害者支援の関連性に着目し、またソーシャルワークの視点、モデル、アプローチと障害者支援の関連性を把握し確認テストに解答する。	オンデマンド

3	障害者支援におけるソーシャルワークの視点（アドボカシー、エンパワメント、ストレングス）について講義する。受講生はアドボカシー、エンパワメントといったソーシャルワークの視点が、障害者支援にどのように具体化するかなどを理解した上で、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	障害者支援におけるソーシャルワークの展開（障害受容、SST、認知行動療法、家族システムズなど）について講義する。受講生は、障害児者への直接的支援として、その方法を具体的に理解した上で、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	障害者支援におけるソーシャルワークの展開（意思決定支援）について講義する。受講生は意思決定支援の意味、意義を理解した上で、その具体的実践方法について検討し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	障害者支援におけるソーシャルワークの展開（社会資源開発、チームアプローチ、多機関連携と地域支援システム）について講義する。受講生はチームアプローチなどの方法を具体的に理解し、その実践方法を検討し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	ソーシャルワーク理論・アプローチによる支援の実際（生活支援、ケアマネジメント）について、提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる同時双方向演習
8	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用（働くこと、日中活動への支援）について、提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる同時双方向演習
9	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用（発達するこ と、学ぶことへの支援）を提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる同時双方向演習
10	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用（支援システ ム、地域自立支援協議会など）を提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる同時双方向演習

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30 時間）

「レポート課題」の課題 2 について、「アドバイス」の課題 2 を参考にして、4,000 字程度にまとめること。(受講した年度の 1 月までに提出。当年度の締切日を確認すること)。

■レポート課題

課題 1 （事前課題の 2）	障害者支援の史的展開を踏まえ、ソーシャルワークとの接点を確認し、障害がある人へのソーシャルワーク・アプローチによる支援モデルを考える。
課題 2 （事後課題）	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際について、支援方法や支援システムを、開発し、そのプロセスや評価法についても具体的に述べる。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

（課題 1）

「在宅学修 15 のポイント」を参考に、障害の概念、障害者支援の史的展開にかんする基礎的な知識を学修しておいてください。そして、ソーシャルワークの枠組み（視点・モデル・アプローチ）にかんする基礎知識を確認し、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際について、事例研究などを通し具体的なイメージがもてるよう学修してください。

（課題 2）

スクーリングでの学びを踏まえ、ソーシャルワークの視点から障害者支援の枠組みを示してみる。そして、ソ

ーシャルワーク・アプローチによる支援の実際（プロセス、評価ポイントなど）から、ソーシャルワーク・アプローチによる支援モデルを構築してみる。その際には、支援システムによる多機関連携やチームアプローチについても視点を置く必要がある。

■評価の方法・基準

・事前課題レポート(15% X 2)
・全スクーリング(50%)
・事後課題レポート(20%)

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

1) 中野敏子『社会福祉学は「知的障害者」に向き合えたか』高菅出版、2009 年
2) M.オリヴァー著　野中猛・河口尚子訳『障害者にもとづくソーシャルワーク』金剛出版、2010 年
3) C.A.ラップ R.J.ゴスチャ著　田中英樹訳『ストレングスモデル―精神障害者のためのケースマネジメント』金剛出版、2008 年
4) L.C.ジョンソン S.J.ヤンカ著　山辺朗子・岩間伸之訳『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004 年
5) 岩田正美『社会的排除－参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣、2008 年
6) 久保紘章・副田あけみ『ソーシャルワークの実践モデル―心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店、2005 年
7) 狭間香代子『社会福祉の援助観―ストレングス視点／社会構成主義／エンパワメント』筒井書房、2001 年
8) 横須賀俊司・松岡克尚『障害者ソーシャルワークへのアプローチ―その構築と実践におけるジレンマ』明石書店、2011 年

2023～	障害者福祉研究Ⅱ（基礎的理解と臨床）	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	関川 伸哉	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

障害者福祉の基礎的理解の整理と事例から学ぶ生活モデルに基づくアプローチ

■授業の目的

障害者福祉の歴史等を整理する中で、現代社会における障害形態の特徴や傾向等について学び、共生社会の実現（マクロレベル）について学修するとともに障害者福祉と共生社会について考察を深めることを目的とする

■授業の到達目標

・障害者福祉に関するベースとなる知識の整理を行い自らの言葉で他者に説明することができる
・今日における障害の特徴や傾向等について説明することができる
・共生社会をベースとした今後の障害者福祉について事例をもとに考察・説明することができる

■授業の概要

現代社会（本講義では戦後）の障害者福祉について学ぶ中で、「障害者福祉とは」の基本の整理を行う。次に今日における生活課題の整理を行う中で、地域共生社会の実現に向けた社会福祉専門職の専門性について考察を行う。また、今日の障害特性等について事例をもとに確認しながら、障害者福祉と共生社会について学修を行う。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	戦後の障害者福祉について整理する①	戦後間もない時期の日本、制度の整理	1945～1980の日本の動向
2	戦後の障害者福祉について整理する②	日本の高度経済成長期後、障害形態等の変化	1980～2000の日本の動向
3	戦後の障害者福祉について整理する③	措置から支援費、世界の動向	2000以降の日本の動向
4	戦後の障害者福祉について整理する④	ノーマライゼーション、国際障碍者年	1945～1990の世界の動向
5	戦後の障害者福祉について整理する⑤	CBR、ICF、国際動向	1990年以降の世界の動向
6	障害とは？	障壁、マイノリティ、スティグマ	3障害以外の視点から考える
7	障害者福祉とは？	社会、生活、共生	上記を（1～6）踏まえて考察
8	障害者福祉実践の価値とは？	社会福祉の知識・技術・価値	上記を（1～7）踏まえて考察
9	地域共生社会とは？	共生、地域、村社会	厚生労働省等の定義をもとに、各自の言葉で考察
10	何故、地域共生社会の実現が重要なのか？①	Society.5.0、VUCA、人口減少	上記を（1～8）踏まえて考察
11	何故、地域共生社会の実現が重要なのか？②	便利、自立、村社会	上記を（1～8）踏まえて考察
12	地域共生社会と障害者福祉①	生活上の課題、地域生活	上記を（1～11）踏まえて考察 主に生活の場から考える
13	地域共生社会と障害者福祉②	就学、就労	上記を（1～11）踏まえて考察 主に学び働く場から考える

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
14	地域共生社会と障害者福祉③	ライフサイクル、移動	上記を（1～11）踏まえて考察 主に社会参加から考える
15	まとめ	ソーシャルインクルージョン	上記を（1～14）踏まえて考察

■スクーリング事前課題（学修時間目安：8時間以上）

・在宅学修15のポイントを踏まえて振り返り学修を行ってください
・上記は、可能な範囲でノートにまとめスクーリング時に持参してください
・スクーリングでは、事前学習内容を踏まえてディスカッションを行います

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	障害者と障害者福祉	オンデマンド
2	障害者の生活	オンデマンド
3	障害者福祉の基本にあるもの	オンデマンド
4	マイノリティと差別や障害	オンデマンド
5	事例から考える障害者福祉①	オンデマンド
6	事例から考える障害者福祉②	オンデマンド
7	オンデマンドスクーリングの振返り	対面
8	医学・社会・生活モデルから考える障害者福祉（事例含）	対面
9	医学・社会・生活モデルから考える障害者福祉（事例含）	対面
10	まとめ・確認	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：8時間）

・スクーリング時に配布した資料を全て読み返し、必要に応じてノートにまとめてください
・その際には、参考図書等を用いて内容の確認・追記を行うようにしてください
・スクーリングで学んだ内容は、自分の言葉で他者に伝えられるように、言葉にして繰り返し学修してください
・上記を終えた後にレポート学修に取り組んでください

■レポート課題

課題1 （事前課題）	「障害者福祉に関わる理念の変遷と価値」及び「障害者福祉の世界的動向（国内は含まない）」についてまとめ、「障害者福祉とは」について論考せよ
課題2 （事後課題）	「今日における地域共生社会の意味と重要性」及び「これからの地域共生社会と障害者福祉」についてまとめ、障害害者を取り巻く現状やその抱える課題について論考せよ

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題1
アドバイス

・レポート作成の際には、5つ以上の参考・引用文献を用い、最後に記載してください
・レポート作成の際、引用個所がわかるように必ず本文中に引用番号を記載してください
・必ず、以下の章立てを行ってください

1. 障害者福祉に関わる理念の変遷について
2. 障害者福祉の価値について
3. 障害者福祉の世界的動向について
4. 障害者福祉とは？

5. まとめ
参考及び引用文献

課題2
アドバイス

・レポート作成の際には、5つ以上の参考・引用文献を用い、最後に記載してください
・レポート作成の際、引用個所がわかるように必ず本文中に引用番号を記載してください
・必ず、以下の章立てを行ってください

1. 今日における地域共生社会の意味について
2. 今日における地域共生社会の重要性について
3. これからの地域共生社会と障害者福祉について
4. 障害者を取り巻く現状やその抱える問題について
5. まとめ
参考及び引用文献

■評価の方法・基準

・スクーリング60%、課題レポート40%

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『障害者福祉』中央法規、2021
2）福島 智『ぼくの命は言葉とともにある　9歳で失明18歳で聴力も失ったぼくが東大教授となり、考えてきたこと』致知出版社、2015
3）伊是名 夏子『ママは身長100cm』ハフポストブックス、2019
4）涌井学『前科者』小学館文庫、2021

2023～ 精神保健福祉研究	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	大島　巌	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

精神障がい当事者のリカバリー実現を支えるソーシャルワーク実践
～支援環境開発を進める実践と研究の方法～

■授業の目的

・近年、精神障がいのある人たちへの支援目標として世界的に重視される「リカバリーの実現」に対して、有効なソーシャルワーク実践の方法を、エビデンスに基づく支援環境の開発（活用と創出）という観点から検討します。その方法は、世界的な脱施設化の潮流の中から実践的に生み出され、実践研究の助けも得ながら発展したことが知られています。

・本授業では、当事者が望むリカバリーゴールの種別ごとに（退院・地域移行、働く、社会的役割を持つ、仲間を作る、家族から自立する等)、実践的な積み重ねと実践研究に基づく成果（エビデンス）を提示します。その上で、それぞれの実践現場にどのように適用すれば良いのか、受講生と共に討議しながら、実践力とともに研究力をも身に付けます。

■授業の到達目標

①ソーシャルワーク実践の支援ゴールとしての福祉対象者が望む「リカバリー実現」はどのようなものなのか、どのように捉えたら良いのかを理解し、説明できる。

②精神障がい当事者が希望する支援ゴール、リカバリーゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」（効果的援助要素）は何かを、国際的な成功例（EBPプログラム等）の経験から整理し、説明できる。

③「リカバリーの実現」を支える支援環境開発の方法を、脱施設化をはじめとした取組みの歴史から学ぶと共に、実践研究の方法である「プログラム開発と評価」をどのように活用すれば良いのかを理解し、それぞれの実践現場に適用することができるようになる。

■授業の概要

ソーシャルワーク(SW)実践の支援ゴールとしての「リカバリーの実現」はどのようなものか、近年のリカバリーに関わる実践と研究の取組みから整理します。その上で、「社会参加・地域参加」レベルでのリカバリー実現に注目して、退院・地域移行・地域定着、就労、ひきこもりからの離脱、社会参加・仲間作り、家族のリカバリーなどリカバリーゴールの種別ごとに、リカバリーの実現に有効なSW実践の方法を検討します。

SW実践の方法として、エビデンスに基づく支援環境の開発（活用と創出）という観点から、《1》個別の支援事例の経験に基づいて検討するとともに、《2》「プログラム開発と評価」の方法に対応させて理解します。《2》については、可能な限り国際的な成功例（EBPプログラム等）の経験などを用いて整理し提示します。

以上に関する教材は、必読書の大島(2016)と、それに対応した講師提供資料、およびオンデマンド型の動画教材を用います。

在宅学習15ポイントに対応させて、オンデマンド型で動画配信します。在宅学習課題を深めるために、3回ほど同時双方向リモート授業による質疑応答、意見交換のスクリーニング授業を行います。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント

1	SW 実践の支援ゴールとしてのリカバリー	成果としてのリカバリー（地域参加）、医療機関でできること、リカバリーの「壁」	当事者が《希望する支援ゴール》の多くは、「参加」に関わり、リカバリーゴールの実現には、支援環境開発など、「環境」の整備が重要⇒講師提供資料・テキスト 1 章 3 章・オンデマンド教材を使用
2	精神障がいのある人が抱えるニーズの現状	ICF から見たニーズ、体験としての障がい、ニーズが高い集団の現状と課題	ICF から見たニーズ、体験としての障がい、ニーズが高い 2 集団の現状と課題⇒テキスト 3 章・オンデマンド教材を使用
3	リカバリーゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」とは何か	国際的成功例、ICF 参加、ICF 環境整備、「希望」	希望する支援ゴールの多くは、「参加」に関わる、リカバリーゴールの実現には、支援環境開発など、「環境」の整備が重要⇒テキスト 2 章・3 章・4 章・オンデマンド教材を使用
4	当事者・実践家が参画する協働型「プログラム開発と評価」の方法	プログラム開発と評価、当事者・実践家参画型評価、効果モデルの共創	リカバリー志向サービスの共創の観点から、当事者・実践家協働型「プログラム開発と評価」の方法論を理解する⇒テキスト 4 章・オンデマント教材を使用
5	脱施設化と地域生活支援 ～直接サービスが伴うケアマネジメント の必要性～	脱施設化とケアマネジメントの関係、日本に求められる脱施設化とケアマネジメントの条件	脱施設化の定義と歴史を理解する、欧米の脱施設化の発展と、ケアマネジメントの誕生・発展の関連を理解、日本に集中型・包括型ケアマネジメントを導入するための課題を整理⇒テキスト 5 章・オンデマンド教材使用
6	集中型・包括型ケアマネジメント:ACT	脱施設化、回転ドア現象の防止、包括的ケアマネジメント、モデル実践度尺度	ACT と脱施設化の関係、リカバリーの観点からの評価、日本での実施・普及と SW の役割⇒テキスト 6 章・オンデマンド教材を使用
7	援助付き住居プログラム ～「まずは住居を」プログラムの可能性～	援助付き住居、住居の自己選択、基本的人権としての住居	住居支援において配慮すべき援助、「まずは住居を」プログラムの意義と効果の理解、「まずは住居を」プログラムを精神病院長期入院者の退院促進にどう活用するか⇒テキスト 7 章・オンデマンド教材を使用
8	退院促進支援への取組みの現状と課題：医療とケアサービスの連携・協働	退院促進支援事業、地域移行定着支援事業、医療機関と地域事業所の連携・協働	退院促進支援事業の概要と課題、退院促進支援事業がより有効に機能するために必要なことや課題を、ACT や「まずは住居を」から考察⇒テキスト 8 章・オンデマンド教材を使用
9	家族ケアの必要性と限界 ～家族支援プログラムのあり方①	家族ケアと家族支援、家族アセスメント、家族の感情表出、「生活者としての家族」「援助者としての家族」	精神障がいのある人の家族の置かれている現状、家族ケアの限界とニーズ、家族支援を行うための前提条件、「援助者としての家族機能」と「生活者としての家族機能」のそれぞれに対する支援の必要性⇒テキスト 9 章・オンデマンド教材を使用
10	家族支援の方法と有効性 ～家族支援プログラムのあり方②	家族心理教育、医療機関における心理教育の位置、家族支援の全体プロセス、家族ケアマネジメント	家族心理教育について理解、心理教育が注目された背景と導入の意義、特に医療機関における心理教育の位置と役割、家族支援の全体的プロセスと家族心理教育の位置⇒テキスト 9 章・オンデマンド教材を使用
11	ひきこもり 理解・支援の実際	社会的ひきこもりの定義、ひきこもりからのリカバリーゴール、ひきこもりに対する支援方策	精神障がいをもつ人たちのひきこもり支援のニーズと理解、精神障がいをもつ人のひきこもりの方に対する支援の現状、ひきこもりの方に対する今後の支援方策⇒テキスト 10 章・オンデマンド教材を使用

12	就労支援の新しい方向性 ～IPS 援助付き雇用プログラムへの注目	リカバリーゴールとしての一般就労、IPS 援助付き雇用の有効性	精神障がいをもつ人たちの就労ニーズと雇用の現状、精神がいをもつ人たちへの適用状況を理解、IPS 援助付き雇用の特徴と意義、効果を理解する⇒テキスト 11 章・オンデマンド教材を使用
13	ピアサポート、当事者サービス提供者、セルフヘルプグループ	ピアサポートの有効性、ピアサポート活動とのパートナーシップの形成	ピアサポートのニーズ、ピアサポートの意義と価値、効果、ピアサポートと当事者サービス提供者のさまざまな類型、ソーシャルワーカーとして、ピアサポートとどのようにパートナーシップを築いて行くか⇒テキスト 12 章・オンデマンド教材を使用
14	EBP プログラムと支援環境開発アプローチ	エビデンスレベル、治療ガイドライン、実施・普及ツールキット	リカバリーゴール達成に有効な国際的な標準モデルの意義、そのように効果モデルを開発するか、実施・普及の進め方⇒テキスト 13 章・オンデマンド教材を使用
15	支援環境開発のための方法とソーシャルワークの役割	ソーシャルワークにおける支援環境開発の意義と役割、障碍者運動、福祉実践の国際的連携と協働	支援環境開発とソーシャルワークの関係、障がい者運動・セルフヘルプグループの意義、支援環境開発のために、当事者・当事者団体とどのようにパートナーシップを築くか、支援環境開発のための国際的連携と協働の必要性⇒テキスト 14 章・オンデマンド教材を使用

■スクーリング事前課題（学修時間目安：40 時間以上）

あなた自身の研究課題に関連した（あるいはあなたが関心を持つ）当事者のリカバリーゴール種別（退院・地域移行・地域定着、就労、ひきこもりからの離脱、社会参加・仲間作り、家族のリカバリーなど）を１つ取り上げ、そのリカバリーゴールをどのように実現したら良いのか、支援環境開発論の観点から、可能な限り具体的な実践事例に基づきながらまとめてください。その際、取り上げたリカバリーゴールの種別におけるゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」（効果的援助要素）については必ず言及するようにして下さい。同時に他のリカバリーゴール種別への取組みから抽出された「支援の要素」（効果的援助要素）についても、あなたの課題に可能な限り取り入れるようにしてください。

レポートは、A4 用紙 2-3 枚にまとめて、第 3 回スクーリングの前迄に事前提出をして下さい（8/3 迄）。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	精神障碍当事者のリカバリー実現を支えるソーシャルワーク実践～総論と授業の進め方	オンデマンド
2	在宅学修 15 ポイントの 1-2 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
3	在宅学修 15 ポイントの 3-4 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
4	在宅学修 15 ポイントの 1-4 に関する解説と質疑応答	リモート授業（6/3 or 6/4 に相談の上開催、1 コマ）
5	在宅学修 15 ポイントの 5-6 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
6	在宅学修 15 ポイントの 7-8 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
7	在宅学修 15 ポイントの 5-8 に関する解説と質疑応答	リモート授業（7/1 or 7/2 に相談の上開催、1 コマ）
8	在宅学修 15 ポイントの 9-11 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド

9	在宅学修 15 ポイントの 12-15 の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
10	在宅学修 15 ポイントの 9-15 に関する解説と質疑応答	対面・リモート授業（8/5 or 8/6 に相談の上開催、1 コマ）

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30 時間以上）

この授業で取り上げた「エビデンスに基づく支援環境開発を進める実践と研究の方法」について、あなたの修士論文研究にどのように活用可能であるのか、この方法論に含まれるいくつかの視点に合わせて、具体的に論じてください。

■レポート課題

課題 1（事前課題）	あなた自身の研究課題に関連した（あるいはあなたが関心を持つ）当事者のリカバリーゴール種別（退院・地域移行・地域定着、就労、ひきこもりからの離脱、社会参加・仲間作り、家族のリカバリーなど）を 1 つ取り上げ、そのリカバリーゴールをどのように実現したら良いのか、支援環境開発論の観点から、可能な限り具体的な実践事例に基づきながらまとめてください。その際、取り上げたリカバリーゴールの種別におけるゴールの実現に向けて重要な「支援の要素」（効果的援助要素）については必ず言及するようにして下さい。同時に他のリカバリーゴール種別への取組みから抽出された「支援の要素」（効果的援助要素）についても、あなたの課題に可能な限り取り入れるようにしてください。
課題 2（事後課題）	この授業で取り上げた「エビデンスに基づく支援環境開発を進める実践と研究の方法」について、あなたの修士論文研究にどのように活用可能であるのか、この方法論に含まれるいくつかの視点に合わせて、具体的に論じてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

（課題 1）

学習テーマの各論に当たる在宅学修 15 のポイント第 6 項～134 項を参照してください。できるだけあなたの研究課題に引き寄せながら、具体的な実践例に則してまとめてください。

（課題 2）

学習テーマの総論に当たる在宅学修 15 のポイント第 1 項～4 項、第 14-15 項を参照してください。できるだけあなたの研究課題に引き寄せながら、具体的な実践例に則してまとめてください。

■評価の方法・基準

・スクーリング 50%、課題レポート 50%

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）大島巌著『マクロ実践ソーシャルワークの新パラダイム～エビデンスに基づく支援環境開発アプローチ：精神保健福祉への適用例から』有斐閣、2016 年

2）田村綾子編著『 社会資源の活用と創出における思考過程』中央法規、2019 年

3）大島巌、奥野瑛子、中野敏子編『障害者福祉とソーシャルワーク』有斐閣、2001 年

4）大島巌編『ＡＣＴ・ケアマネジメント・ホームヘルプサービス～精神障害者地域生活支援の新デザイン』精神看護出版、2004 年

2023～ 医療福祉研究Ⅰ	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	狩野 俊介	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

「医療福祉（ヘルスケア）」領域におけるソーシャルワーク理論に関連する実践と研究。

■授業の目的

ヒューマンサービスにおける医療福祉の捉え方を理解し、医療福祉領域における実践や活動をソーシャルワーク理論に基づいて考察できるとともに、実践を科学する方法にまで結びつけられるようになることを目的とする。

■授業の到達目標

- ヒューマンサービスにおける医療福祉の領域を理解し、ソーシャルワーク理論に結びつけて説明できる。
- 医療福祉（ヘルスケア）領域における関連する理論を理解し、諸問題を解決するための有効な取り組みを示すことができる。
- 医療福祉（ヘルスケア）領域における諸問題を解決するための研究デザインを立てることができる。

■授業の概要

「医療福祉」領域におけるソーシャルワークとは、Medical Social Work、Social Work in Hospitals、Social Work in Healthcare、Social Work in Health Service などと表現されている。医療は言うまでもなく健康と関連する領域であり、近年では人々の健康は生物学的要因だけでなく、社会的決定要因（Social determinants of health）が関連することが示されている。こうした観点から、ここでは健康について視野に入れた「医療福祉」としてのヘルスケアにおいて、ソーシャルワークのあり方を考える。つまり、医療、健康、ストレス、安全をキーワードにヘルスケアにおける多様な側面における諸課題・諸理論をもとにして、今後の「医療福祉」領域におけるソーシャルワークの意義や可能性について考察する。加えて、こうしたソーシャルワーカーによる実践を科学するための方法についてもふれていく。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	医療福祉領域におけるソーシャルワーク	医療福祉、健康	医療福祉のヘルスケアとしての捉え方、保健医療とソーシャルワークの関連を学修する
2	医療ソーシャルワークの歴史と現状	MSW（Medical Social Work）、歴史	日本や諸外国における医療ソーシャルワークの歴史と現状について学修する
3	医療ソーシャルワークの業務とストレスマネジメント	業務指針、ストレスマネジメント	医療ソーシャルワーカーの実践活動と機能、また実践上で抱えるストレスについて学修する
4	疾病に伴う生活課題と医療ソーシャルワーク①（身寄り問題への支援）	身寄り問題、医療同意	疾病に伴って生じる生活課題の一例として、身寄りのない人への医療ソーシャルワークについて学修する
5	疾病に伴う生活課題と医療ソーシャルワーク②（スティグマの理解）	スティグマ	さまざまな疾病によって生じうるスティグマについて医療ソーシャルワークとの関連から学修する
6を入れる 7	患者・家族と医療ソーシャルワーク	病むこと、当事者の知	疾病を抱えることについて、患者そしてその家族の立場から理解することを目指す

	学修のテーマ	学修内容（キーワード）	学びのポイント
~~7~~ 8	医療福祉領域における意思決定支援①（意思決定）	意思決定支援、インフォームド・コンセント、SDM（Shared Decision Making）	医療福祉領域における患者の意思決定のための支援について学修する
~~8~~ 9	医療福祉領域における意思決定支援②（事前指示）	ACP(Advance Care Planning)、クライシス・プラン	医療福祉領域において用いられている事前指示の方法について学修する
5のこの2に移動 ~~9~~ 6	医療福祉領域で働く人のメンタルヘルス	バーンアウト、ワークエンゲイジメント	医療福祉領域で働く専門職のメンタルヘルスと職務継続について学修する
10	ヘルスケア①（健康と健康生成論）	健康生成論、ストレス対処力	健康生成論とストレス対処力の概要について理解することを目指す
11	ヘルスケア②（心的外傷後成長）	心的外傷後成長、レジリエンス	さまざまな困難の経験後による成長に関する概念について理解することを目指す
12	ヘルスケア③（健康とストレス対処）	ストレス対処、認知行動療法、予防	認知行動療法に基づくストレス対処等のヘルスケアについて学修する
13	ヘルスケア④（健康格差と社会的処方）	健康格差、社会的処方、ソーシャル・キャピタル	健康格差が生じる背景について理解し、その対策のあり方について学修する
14	安全・安心のためのセーフティプロモーション	安全、セーフティプロモーション	傷害（事故など）を防ぐための方法としてのセーフティプロモーションの基本的な考え方について学修する
15	ソーシャルワークの効果測定とヘルスサービスリサーチ	事例研究、効果測定、サービス評価	医療福祉領域におけるソーシャルワーク実践の評価方法について学修する

■スクーリング事前課題（予習）（学修時間目安：35時間）

・スクーリングによる対面授業の際には、学習テーマに対応したオンデマンド教材を視聴後に受講する形をとる。そのため、オンデマンド教材を視聴後に再度学習内容（キーワード）について整理し、研究的な観点・関心からミニレポートをまとめてください。

・レポート課題の「課題１」を提出してください。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	医療福祉領域におけるソーシャルワークについて：導入の講義	リモート
2	医療ソーシャルワークの歴史と医療ソーシャルワーカーの実際（学習テーマ２～３）についての講義とミニレポートの作成	オンデマンド
3	疾病に伴う生活課題と医療ソーシャルワークについて（学習テーマ４～５）の講義とミニレポートの作成	オンデマンド
移動 ~~4~~5	患者、その家族から学ぶ医療ソーシャルワークのあり方（学習テーマ7）についての講義とオンデマンド授業内容についての質疑応答	対面
~~5~~6	医療福祉領域における意思決定支援ついて（学習テーマ8）の講義	対面
~~6~~7	医療福祉領域における事前指示について（学習テーマ9）の講義	対面
~~7~~4	医療福祉領域で働く人のヘルスケアについて（学習テーマ6）の講義とミニレポート作成	オンデマンド 移動
8	健康の理解と健康に関連した諸概念について（学習テーマ10～11）の講義とオンデマンド授業内容についての質疑応答	対面
9	健康に関する個人と環境へのアプローチについて（学習テーマ12～13）の講義	対面
10	医療福祉領域における効果測定とサービス評価について（学習テーマ14～15）の講義	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：35時間以上）

・レポート課題の「課題２」について作成し、提出してください。

■スクーリングの事前事後課題

課題 1 （事前課題）	医療ソーシャルワークの歴史的展開とともに、今日の医療福祉領域で求められるソーシャルワーク実践とその背景について論じてください（4,000字程度）。
課題 2 （事後課題）	授業で取り上げたヘルスケアに関する諸概念・実践上の視点や方法・研究方法などについて、自身の研究課題に引き寄せて理解することができた内容とともに、それらがどのように応用できるか、具体的に論じてください（4,000字程度）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題 1 アドバイス

在宅学習15のポイントを参考に、医療福祉の理解、医療ソーシャルワークの歴史といった基礎的な理解を踏まえつつ、今日のソーシャルワークを取り巻くどのような環境の影響により、医療福祉領域で求められる役割も変化してきているのかについて考察してください。

と考えられる

課題 2 アドバイス

近接領域における諸概念や方法論を、自らの実践や研究領域に引き寄せて理解し、応用可能性について検討する能力は重要です。そうしたスクーリングで内容を踏まえ、自身の研究においてどのように捉えることができるか、応用することができるかなどを報告してください。なお、レポート作成時に用いる学びの内容は複数あげても良いです。

■評価の方法・基準

・スクーリング60%、課題レポート40%

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）近藤克則『健康格差社会　何が心と健康を蝕むのか（第2版）』医学書院、2022

2）黒岩晴子編著『新版　人と社会に向き合う医療ソーシャルワーク』日本機関紙出版センター、2020

3）杉山明信、保正友子、楢木博之編著『医療ソーシャルワーカーのストレスマネジメント』中央法規、2020

4）中山和弘『これからのヘルスリテラシー　健康を決める力』講談社、2022

5）狩野俊介『クライシス・プラン実践ガイドー精神障害者の地域生活を支援するための新たなケア計画ー』玄武書房、2020

6）山崎喜比古・吉井清子監訳『アーロン・アントノフスキー著 健康の謎を解くストレス対処と健康保持のメカニズム』有信堂、2001

7）近藤克則編著『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉　実証研究の手法から政策・実践への応用まで』ミネルヴァ書房、2020

8）田宮菜奈子・小林康毅編『ヘルスサービスリサーチ入門　生活と調和した医療のために』東京大学出版、2017

2023～	医療福祉研究Ⅱ（地域連携・多職種連携）	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	中村 令子	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

医療・福祉・保健における職種間の連携・協働を推進するためのスキルを身につけ、実践力を養うために、自身のこれまでの他職種との連携協働を評価することで、医療・福祉・保健におけるそれぞれの専門分野の知識や技術を尊重しながら、関係職種間が連携および協働して、地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献する新たな実践を創造できる専門職となるために必要な知識、技術、態度を検討する。

■授業の目的

1．専門職間の連携・協働が求められている背景を理解する。
2．連携・協働のための戦略や理論を理解する。
3．脳血管障害後遺症者の家庭復帰までの多職種連携の実際を理解する。
4．専門職間の連携・協働に価値をおき、他職種の意見を尊重する態度を修得する。
5．職種間、組織間の協働実践の改善策を考察する。

■授業の到達目標

1．多職種連携の意義を述べることができる。
2．連携・協働のために備えるべき能力を述べることができる。
3．自身の専門領域で関わる他の専門職の役割を述べることができる。
4．当事者および多職種連携の視点から自身の協働実践の改善策を述べることができる。

■授業の概要

少子高齢化、医療費・介護保険費の負担増加といった社会構造的問題、疾病や障害の重症化や生活課題の重複といった対象者の問題、更に個人の健康価値観の多様化もあり、多職種の連携・協働を必要とする事例が増加している。総論として、多職種連携が求められるようになった背景と多職種連携に必要なコミュニケーションやファシリテーションの技術を理解する。各論として、脳血管障害患者の医療・福祉領域での多職種連携や各自の専門領域の多職種連携に関わる研究の分析から、当事者および多職種・多機関の視点で実践を振り返る。それにより、専門分野の知見を尊重しながら、関係職種間の連携および協働により地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献する新たな実践を創造できる専門職となるための知識、技術、態度を修得する。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	総論① 多職種連携が求められる背景	保健・医療・福祉施策 多職種連携の必要性	保健・医療・福祉施策で多職種連携が求められるようになった背景を理解し、各自の専門領域での多職種連携はどのように行われおり、何故、それが必要とされるのかを考える。
2	総論② 多職種連携とは	職種理解（他職種と多職種） コミュニケーション チーム医療と多職種連携 連携・協働のための情報共有	多職種連携の目的、意義、方法を理解する。各自の専門領域の情報収集の枠組みを他職種の人に説明できるようにし、異なる職種間の情報共有の必要性と方法を理解する。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
3	協働する力① 場のデザイン・関係調整のスキル	ファシリテーション チームビルディング 協働型チーム コミュニケーション技術	必読図書の序章・第1章・第2章を読んで、自身の実践を振り返る。
4	協働する力② 構造化のスキル・合意形成のスキル	問題の原因分析 合意形成	必読図書の第3章、第4章を読んで、自身の実践を振り返る。
5	協働する力③ ファシリテーションの実践	ケーススタディ	必読図書の第5章を読んで、自身の実践を振り返る。
6	多職種連携の実際① 脳血管障害患者の急性期・回復期治療	脳血管障害 リハビリテーション	急性期から回復期の脳血管障害の治療・リハビリテーションに関わる組織や職種の連携・協働を理解し、自身の専門領域での連携・協働への応用・活用を検討する。
7	多職種連携の実際② 脳血管障害後遺症者の在宅療養	脳血管障害 訪問看護	脳血管障害後遺症者の在宅療養に関わる組織や職種の連携・協働を理解し、自身の専門領域での連携・協働への応用・活用を検討する。
8	多職種連携の実際③ 自身の専門領域で関わる職種の理解	自身の専門領域に関わる多職種	自身の専門領域に関わる職種の役割と機能を理解し、連携・協働の改善策を検討する。
9	多職種連携研究① 連携・協働実践の振り返りに向けて	これまでの学びを自身の実践に生かすための検討	発表に向けて、これまでの学びを整理し、自身の論点を明確化する。
10	多職種連携研究② 各自の専門領域で行われている研究	多職種連携研究	レポート課題1と発表に向けて、各自の専門領域での多職種連携に関する研究を調べる。
11	多職種連携研究③ 各自の実践の紹介	実践発表	レポート課題1と発表に向けて、各自の専門領域の実践を紹介する。
12	多職種連携研究④ 各自の実践を改善するための対策	実践発表	レポート課題1と発表に向けて、本授業の学びから、各自の実践を改善するための対策を検討する。
13	多職種連携研究⑤ プレゼンテーション	実践発表	①各自の専門領域の研究の動向、②各自の専門領域での実践、③各自の実践を改善するための対策を発表する。
14	多職種連携研究⑥ 他の発表の検討	他職種の理解	レポート課題2に向けて、職種や課題による違いや共通すること、取り入れられる対策を検討する。
15	まとめ 多職種連携の課題と対策	多職種連携の課題・対策	レポート課題2に向けて、各自の多職種連携の課題・対策・今後の取り組みを検討する。

■スクーリング事前課題（学修時間目安：10時間程度）

・①各自の専門領域での多職種連携・地域連携に関する研究、②各自の専門領域での多職種連携・地域連携の実践、③各自の実践を改善するための対策を説明するスライドを作成してください。対面授業で発表を行いますので、配布用資料とスライドを持参してください。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	総論 多職種連携が求められる背景・様々なチーム・情報共有	リモート
2	協働する力① 場のデザイン・関係調整のスキル	オンデマンド
3	協働する力② 構造化のスキル・合意形成のスキル・ケーススタディ	オンデマンド
4	多職種連携の実際① 脳血管障害患者の急性期・回復期治療	オンデマンド
5	多職種連携の実際② 脳血管障害後遺症者の在宅療養	オンデマンド

	授業の内容	授業の方法
6	多職種連携研究① 連携・協働実践の振り返りに向けて	リモート
7	多職種連携研究② 発表：各自の専門領域の研究の動向	対面
8	多職種連携研究③ 発表：各自の専門領域の実践事例の紹介	対面
9	多職種連携研究④ 発表：各自の実践を改善するための対策	対面
10	まとめ 多職種連携の課題と対策	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：10時間程度）

・他の発表からの学びを生かして、各自の専門領域での実践を改善するための対策を再考する。

■スクーリングの事前事後課題

課題 1 （事前課題）	①各自の専門領域での多職種連携に関わる研究、②各自の専門領域での実践、③各自の実践を改善するための対策について述べる。
課題 2 （事後課題）	①他の発表からの学び、②他の発表や質疑をもとに再考した各自の実践を改善するための対策、③多職種連携・地域連携に関して今後取り組みたいことについて述べる。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題 1 アドバイス

授業で学んだコミュニケーション・ファシリテーションの基本や各専門領域での研究成果を参考として、実践を振り返り、対策を検討してください。③は、理想像ではなく、実現可能で具体的な行動として述べるようにしてください。②で事例を説明する場合は、個人が特定されない表現で記載してください。

課題 2 アドバイス

①他の発表や質疑から気づいたことから、②課題1-③の加筆修正を行い、③多職種連携・地域連携に関して今後取り組みたいことを述べてください。理想像ではなく、実現可能で具体的な行動として述べるようにしてください。

■評価の方法・基準

・課題 1 （30%）、プレゼンテーション・質疑（40%）、課題 2 （30%）

①問題意識を持って自らの実践を振り返り、実行可能性のある改善策を検討しているか。②分かりやすく他者に伝えられているか。③他職種の意見を尊重する態度が示されているかを評価の視点とします。

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）中村誠司著 『対人援助職のためのファシリテーション入門 - チームの作り方・会議の進め方・合意形成のしかた』 中央法規、2017年

2）北島政樹編 『医療福祉をつなぐ関連職種連携 - 講義と実習にもとづく学習のすべて』 南江堂、2021年

3）伊藤健司　土谷幸己　竹端寛 『「困難事例」を解きほぐす - 多職種・多機関の連携に向けた全方位型アセスメント』 現代書館、2021年

4）藤原佳典監　倉岡正高・石川貴美子編著 『保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門 - 地域協働によるソーシャル・キャピタルの育て方・活用法』ミネルヴァ書房、2021年

5）奥宮暁子　金城利雄　石川ふみよ編 『ナーシンググラフィカ成人看護学⑤　リハビリテーション看護』メディカ出版、2022年

2023～ 福祉経営・マネジメント研究Ⅰ	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	高橋 誠一	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

社会福祉法人マネジメントの規範的実証的検討

■授業の目的

社会福祉法人の社会的役割を理解し、福祉経営の理解を深める。さらに、その研究方法を理解する。

■授業の到達目標

・社会福祉法人の成立過程を理解したうえで、社会福祉法人の存在意義を説明できる。
・社会福祉法人制度の改革の背景を理解したうえで、社会福祉法人の新たな役割を説明できる。
・社会福祉法人の非営利性、公益性、先駆性、公平性について、具体的に説明できる。
・社会福祉法人のマネジメントについて、研究課題を見出し、調査研究することができる。

■授業の概要

本講義では、社会福祉法人のマネジメントについて、社会福祉法人制度の理解に基づき、社会福祉の視点からその公益性と先駆性を経営に生かす方法を学ぶ。社会福祉法人のマネジメントには、法人のガバナンスと機関のマネジメントに関わるテーマと社会福祉法人が行う事業や活動に関するテーマがあり、また、他の法人形態との比較における特徴をどのようにとらえるのか、歴史的、理論的、実践的な多面的検討が必要であるので、これらも含め理解を深めていく。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	社会福祉における政府の役割	行政学、社会福祉学	テキスト1）1章を読んでください。 社会福祉における公的責任論と民間委託についても考えてください。
2	福祉サービスにおける準市場の条件	市場構造、条件整備	テキスト1）2章を読んでください。 規制緩和、民営化の理論的背景を理解してください。
3	社会福祉法人制度の設立	社会福祉事業法、シャウプ勧告、社会福祉事業、機関	テキスト1）3章を読んでください。 歴史的背景を踏まえて社会福祉法人制度の必要性を理解してください。
4	社会福祉法人制度改革	2016年社会福祉法改正、「内留保」問題	テキスト1）3章を読んでください。 できれば、2019年度の社会福祉法人改革についても調べてみてください。
5	イーコールフッティング論	競争条件格差、参入規制、補助金・税制優遇措置	テキスト1）3章を読んでください。 社会福祉法人に対するイーコールフッティング論がなぜ生まれたのか考えてください。
6	社会福祉法人の公益性概念	社会福祉法人の公益性モデル	テキスト1）4章1、2節を読んでください。 社会福祉法人における公益性の重要性を理解してください。
7	社会福祉法人のサービスの質	投入産出モデル、利用者満足	テキスト1）4章3節、5章を読んでください。 ヒューマンサービスについても調べてください。

	学修のテーマ	学修内容（キーワード）	学びのポイント
8	社会福祉法人の平等性	利用者負担の軽減	テキスト１）４章４節を読んでください。 低所得者への軽減制度について具体的に調べてください。
9	社会福祉法人の社会貢献・合規性	社会福祉充実残額、貸借対照表、地域貢献事業計画	テキスト１）４章５節を読んでください。 内部留保の計算方法とその概念を理解してください。
10	社会福祉法人設立時の特異性	競争条件格差の背景、公の支配、措置費	テキスト１）４章６節を読んでください。 日本の戦後復興期における経済、政治状況と合わせて理解してください。
11	非営利組織としての社会福祉法人	非営利組織の経営、第三者による政府	非営利組織論から社会福祉法人の経営課題を考えてください。各自ネット等で調べてください。参考文献２）p.159-192を参考にしていただいてもいいです。
12	社会福祉法人の地域貢献	実践事例	実践事例を通して、社会福祉法人の社会貢献、地域貢献の具体的取り組みを理解してください。各自ネット等で調べてください。参考文献２）p.104-158を参考にしていただいてもいいです。
13	社会福祉協議会のマネジメント	介護保険事業、地域福祉推進事業	社会福祉協議会と、施設運営を主とする社会福祉法人との違いを考えてください。各自ネット等で調べてください。参考文献３）を参考にしていただいてもいいです。
14	社会福祉法人の介護事業の経営	実践事例	介護事業経営における人材育成、組織づくりなどハード面だけでなくソフト面の取組みについても考えてください。各自ネット等で調べてください。
15	社会福祉法人のマネジメント	講義全体のまとめ	社会福祉法人のマネジメントに関して留意すべきことをまとめてください。

■スクーリング事前課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題１について、「アドバイス」の課題１を参考にして、4,000字程度にまとめること（対面スクーリングの１週間前までに提出してください）。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	社会福祉法人マネジメント分析のための基礎理論 基本的な理論的枠組みと理論モデルを学ぶ	オンデマンド
2	組織の経済学における取引費用アプローチ 組織の境界と市場対組織の関係性を理解する	オンデマンド
3	企業所有論 投資家所有やその他の所有形態や非営利性などの多様性を理解する	オンデマンド
4	経営経済学の分析理論①採用基準と適任者の採用 人的資本、スクリーニング、シグナリングの理論を理解する	オンデマンド
5	経営経済学の分析理論②能力への投資と離職管理 一般的人的資本、企業特殊的人的資本の相違を理解する	オンデマンド
6	経営経済学の分析理論③組織の設計 意思決定と組織構造の関係について理解する	オンデマンド
7	経営経済学の分析理論④職務設計 テーラー主義、内発的動機、チームの役割の関係について理解する	対面
8	経営経済学の分析理論⑤実績報酬 実績の評価、報酬、インセンティブの関係について理解する	対面
9	経営経済学の分析理論⑥キャリアアップとインセンティブ 昇進、キャリアアップとインセンティブの関係を理解する	対面

	授業の内容	授業の方法
10	経営経済学の分析理論⑦福利厚生と雇用関係 福利厚生と雇用関係における経営問題を理解する	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：40時間）

「レポート課題」の課題２について、「アドバイス」の課題２を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の１月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■スクーリングの事前事後課題

課題１（事前課題）	社会福祉における社会福祉法人の存在意義を論じなさい。
課題２（事後課題）	福祉人材確保、福祉人材育成の取り組みを調べ、効果的と考えられる方策を論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題１ アドバイス

社会福祉法人の成立過程から、社会福祉法人制度改革を経て、その都度社会福祉法人の存在意義が再検討されてきました。どのような課題に対して、どのような改革が行われてきたのかを明らかにする中で、社会福祉法人の存在意義を論じてください。

課題２ アドバイス

福祉人材確保、福祉人材育成に関しては、国などが政策として取り組んでいます。短期的な量的確保にとどまらず、長期視点に立った（法人理念にかなった）取り組みを考えてください。さらに、様々な社会福祉法人や非営利団体、営利団体の取組みも参考に考えてください。

■評価の方法・基準

・スクーリング50%、課題レポート50%

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊１）狭間直樹＿『準市場の条件整備　社会福祉法人制度をめぐる政府民間関係論』福村出版　2018年
２）関川芳孝編『社会福祉法人制度改革の展望と課題』大阪公立大学共同出版会　2019年
３）宝塚市社会福祉協議会編『市民がつくる地域福祉のすすめ方』CLC　2018年
４）関川芳孝編『社会福祉法人はどこに向かうのか』大阪公立大学共同出版会　2021年
５）フレデリック・ラルー『ティール組織　マネジメントの常識を覆す次世代型組織の出現』英治出版　2018年
６）全国社会福祉協議会『問い直される社会福祉法人　社会福祉法人の在り方等に関する検討会報告書を読む』全国社会福祉協議会　2014年
７）全国社会福祉法人経営者協議会編『改訂増補　社会福祉法改正のポイント　これからの社会福祉法人経営のために』全国社会福祉協議会　2016年
８）菅田正明ほか編著『Q&A　社会福祉法人制度改革の解説と実務　平成29年度全面施行対応版』ぎょうせい　2017年
９）ラジアー、ギブス『人事と組織の経済学　実践編』日本経済新聞出版社　2017年
10）ハンスマン『企業所有論　組織の所有アプローチ』慶應義塾大学出版会　2019年
11）黒木淳『非営利組織会計の実証分析』中央経済社　2018年
12）伊藤秀史ほか『組織の経済学』有斐閣　2019年
13）田口聡志『教養の会計学　ゲームと実験でデザインする』ミネルヴァ書房　2020年
14）新原浩朗『組織の経済学のフロンティアと日本の企業組織』日経ＢＰ　2023年

2023～	福祉経営・マネジメント研究Ⅱ（リスクマネジメント研究）	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	菅原 好秀	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

福祉経営に関するリスクマネジメント研究

■授業の目的

1）福祉経営に関するリスクを理解することを目的とする。
2）介護事故の事例研究を通じて、リスクに対処・防止する実践力の基礎を確立させることを目的とする。
3）リスクマネジメントの修得を通じて、主に人間理解力と問題解決力について理解を深めることを目的とする。

■授業の到達目標

1）リスクマネジメントの裁判例を通じて、法的な構造について説明できる。
2）典型的な福祉経営の法的権利侵害場面に対して、リスクをマネジメントする方法について説明できる。
3）法と福祉分野に関する高度な専門的知識を修得することができる。
4）現代社会における多様な問題を的確に分析し、説得力のある法的議論を展開する能力を修得することができる。
5）先行研究、外国文献等の必要な資料を渉猟し、学術的な意義のある論文を作成するための基礎的な研究能力を修得することができる。
6）所定の年限に修士に価する論文を作成することができる。

■授業の概要

1）福祉経営におけるリスクの意義、概念規定について研究していきます。
2）介護施設における裁判事例、障害者施設における裁判事例について研究していきます。
3）利用者・家族からの苦情対応については、裁判事例を踏まえて、研究していきます。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容（キーワード）	学びのポイント
1	福祉経営におけるリスクの意義について	福祉経営、リスクマネジメント	福祉経営の理念、リスクマネジメントの意義、概念について学修する。
2	「介護サービスの清掃義務違反に伴う利用者の転倒・骨折事故」について	利用者の自己決定、施設側の管理責任	「介護サービスの清掃義務違反に伴う利用者の転倒・骨折事故」の事案と判旨を踏まえて、利用者の自己決定権ついて学修する。
3	「デイサービス利用中の行方不明にかかる死亡事故」について	認知症、徘徊	「デイサービス利用中の行方不明にかかる死亡事故」の事案と判旨を踏まえて、施設側の徘徊防止対策について学修する。
4	「介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故」について	見守り義務違反、記録の改ざん	「介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故」の事案と判旨を踏まえて、施設側勝訴の判断基準について学修する。
5	「老人保健施設における転落死亡事故」について	安全配慮義務、介護方法、タテ社会	「老人保健施設における転落死亡事故」の事案と判旨を踏まえて利用者の介護方法について学修する。
6	「老人保健施設における誤嚥による死亡事故」について	食材の提供方法、監視体制、救急救命措置	「老人保健施設における誤嚥による死亡事故」の事案と判旨を踏まえて、施設側の誤嚥防止対策について学修する。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
7	「特別養護老人ホームにおける誤嚥による死亡事故」について	緊急時の介護マニュアル、不顕性誤嚥	「特別養護老人ホームにおける誤嚥による死亡事故」の事案と判旨を踏まえて、緊急時の介護マニュアルについて学修する。
8	「利用者の送迎中の転倒・骨折死亡事故」について	送迎、安全配慮義務	「利用者の送迎中の転倒・骨折死亡事故」の事案と判旨を踏まえて、利用者の送迎の安全配慮義務について学修する。
9	「ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故」について	ボランティア、介護事故の責任の範囲	「ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故」の事案と判旨を踏まえて、ボランティアの介護事故の責任の範囲について学修する。
10	「利用者同士のトラブルによる転倒・骨折事故」について	利用者トラブル、施設側の管理責任	「利用者同士のトラブルによる転倒・骨折事故」の事案と判旨を踏まて、施設側の管理責任について学修する。
11	「災害時の利用者の行動特性と今後の施設職員の対応方法」について	災害、利用者の安全確保の方法	災害時の利用者の行動特性と今後の施設職員の対応方法について学修する。
12	介護職員による医療行為のリスクについて	医療行為、利用者の安全配慮義務	介護職員による医療行為のリスクについて学修する。
13	利用者及びその家族からの苦情とリスクマネジメントについて	苦情、リスクマネジメント、謝罪	利用者及びその家族からの苦情の対応方法を裁判事例から学修する。
14	福祉経営のリスクと介護サービスについて	福祉経営、介護サービス、リスクマネジメント	福祉経営のリスクを介護事故裁判例から学修する。介護事故裁判事例を踏まえて、利用者の権利を擁護し、福祉経営における介護事故の対処・防止する支援モデルを考える。(「レポート課題」の課題1に相当)
15	介護事故に伴う遺族感情と金銭賠償について	遺族感情、金銭賠償、ナラティヴ	福祉経営を脅かす訴訟が生じる原因について、介護事故に伴う遺族感情から学修する。まとめとして、介護事故を未然に防ぐ予防的側面と介護事故が生じた場合の事後的な対応を踏まえて、再発防止対策について学修する。(「レポート課題」の課題2に相当)

■スクーリング事前課題(学修時間目安:35時間以上)

1)「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、それぞれにまとめる(同時双方向または対面の演習の1週間前に提出)。

2)「レポート課題」の課題1について、「アドバイス」の課題1を参考にして、4,000字程度にまとめること(「在宅学修15のポイント」の14に相当。同時双方向または対面の演習の1週間前に提出)。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	福祉経営の概念、リスクマネジメントの意義について講義する。受講生は、リスクマネジメントの本質を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	転倒・骨折に関する介護事故裁判の事案と判旨と再発防止対策について講義する。受講生は、転倒・骨折事故の再発防止対策を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	徘徊に関する介護事故裁判の事案と判旨と再発防止対策について講義する。受講生は、徘徊事故の再発防止対策を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	誤嚥に関する介護事故裁判の事案と判旨と再発防止対策について講義する。受講生は、誤嚥事故の再発防止対策を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	精神障害者の監督責任に関する裁判事案と判旨と再発防止対策について講義する。受講生は、精神障害者の再発防止対策を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	利用者同士のトラブルに関する介護事故事案と判旨と再発防止対策について講義する。受講生は、精神障害者の再発防止対策を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド

	授業の内容	授業の方法
7	利用者及びその家族からの苦情について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
8	遺族感情について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
9	謝罪について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習
10	介護事故の再発防止対策について、提示する事例に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	同時双方向または対面の演習

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題２について、「アドバイス」の課題２を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の１月までに提出。「在宅学修15のポイント」の15に相当。当年度の締切日を確認すること）。

■スクーリングの事前事後課題

課題 1（事前課題の２）	介護事故裁判事例を踏まえて、利用者の権利を擁護し、福祉経営における介護事故の対処・防止する支援モデルを考える。
課題 2（事後課題）	福祉経営のリスクにおいて、介護サービスにおいて介護事故が発生すると、福祉経営にどのような影響を及ぼし、また、利用者及びその家族が訴訟を提起する理由について説明し、介護事故を未然に防ぐ予防的側面と介護事故が生じた場合の事後的な対応を踏まえて、再発防止対策について具体的に論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題 1 アドバイス

「在宅学修15のポイント」を参考に、介護事故の裁判事案と判旨を、転倒、誤嚥、徘徊の事案ごとに分析し、福祉経営における介護事故の対処・防止する支援モデルを確認しておいてください。ソーシャルワークに関する法的な基礎知識を確認し、ソーシャルワークによる法的対応方法の実際について、事例研究などを通じて、具体的な法的な対応ができるように学修してください。

課題 2 アドバイス

「在宅学修15のポイント」の転倒・誤嚥・徘徊の裁判の事案と判旨を参考に、福祉経営において、介護事故が発生するとどのような法的なリスクが存在し、また、遺族感情が福祉経営にどのような影響を及ぼすのかを説明し、利用者及びその家族への「誠実な対応・謝罪・真相究明・再発防止」の視点から、福祉経営のリスクを具体的に論じてください。

■評価の方法・基準

１）事前課題レポート（15％×２）
２）全スクーリング（50％）
３）事後課題レポート（20％）

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊１）菅原好秀著『リスクマネジメントと法』(建帛社) 2020年
２）菅原好秀著『権利擁護と法』(建帛社) 2022年
３）菅原好秀著『司法と福祉』(建帛社) 2023年
４）菅原好秀編著『福祉ライブラリー　福祉法学　第２版』(建帛社) 2020年

2023～ 国際福祉研究	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	萩野 寛雄	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

修士論文作成に益するべく、福祉国家,その類型、特に社会民主主義型福祉国家への理解を深める

■授業の目的

・国際福祉に関する知識を学ぶことで、社会福祉学全般の基礎的素養に関する専門的知識習得に寄与させる
・国際福祉に関する知見を深めることで、多次元に渡る広い視点を持って対応できるようになる
・修士論文作成に向けて、福祉国家,その類型、特に社会民主主義型福祉国家への理解を深める

■授業の到達目標

①福祉国家の諸類型について理解し、それを他者に説明できるようになる
②北欧型福祉国家について他者に説明できるようになる
③フィンランド福祉国家形成過程について他者に説明できるようになる
④これらの到達点を修士論文に反映できるようになる

■授業の概要

本講義では、多次元に渡る広い視点から日本の福祉を考察できるようになるため、まずは福祉国家や行政国家について、その定義や形成過程の理解を深める。その上で先進国における福祉国家の諸類型を理解し、特に日本の福祉とは異なるレジュームで福祉が供給される「北欧型福祉国家」について学ぶ。それらを理解したうえで、北欧型福祉国家が人為的に形成された事例としてフィンランドを取り上げ、その福祉国家の形成過程を時系列的に学んでいく。

前半は主にエスピン・アンデルセンの著作を基に、福祉国家とその諸類型、特に北欧型福祉国家とは何かについて学んでいく。後半はその理解の基に山田真知子の著作を用い、フィンランド福祉国家の形成過程を例にその北欧型福祉国家形成の歴史過程を追っていく。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	行政国家とは	大きな政府、小さな政府 行政国家化の進展	国家の定義や類型から始まり、夜警国家を経て大きな政府化が進んできた歴史を整理する
2	福祉国家とは① 福祉国家の定義	福祉国家の定義、社会保障、社会福祉	行政国家化によって可能となった「福祉国家」の機能とその定義を理解していく
3	福祉国家とは② 福祉国家を測るスケール	ウィレンスキー、収斂理論	福祉国家を測る方法を理解し、ウィレンスキーの収斂理論や開発独裁の問題を明らかにする
4	エスピン・アンデルセンの福祉レジューム論①脱商品化指標	エスピンアンデルセン、福祉資本主義の三つの世界	エスピンアンデルセンの福祉レジューム論の概要を理解したうえで、「脱商品化」について学ぶ
5	エスピンアンデルセンの福祉レジューム論②階層化指標	エスピンアンデルセン、福祉資本主義の三つの世界	脱商品化と共に福祉レジュームを類型化する「階層化」について理解する
6	自由主義型福祉レジューム	アングロサクソン福祉国家型、新自由主義	脱商品化が低く、階層化が高いアングロサクソン型の福祉レジュームについて学ぶ

7	保守主義型福祉レジューム	大陸型福祉国家、保守主義	脱商品化が高く、階層化も高い欧州大陸型の福祉レジュームについて学ぶ
8	社会民主主義型福祉レジューム	北欧型福祉国家、社会民主主義	脱商品化が高く、階層化が低い北欧型の福祉レジュームについて学ぶ
9	フィンランド福祉国家の特徴	市場化、予防、包括的地方分権	北欧型福祉国家の代表スウェーデン等の福祉国家と比較して見えるフィンランドの特殊性
10	フィンランドの戦後復興と福祉国家形成過程	WWⅡ以前,以後のフィンランドの社会福祉の比較	敗戦国で福祉国家ではなかったフィンランドが、福祉国家化していく過程を整理
11	1984 年の社会福祉保健国庫支出金改革	社会福祉の原則委員会,公的扶助から社会サービス	フィンランドが北欧型福祉国家に変容していく過程を学ぶ
12	フィンランド型福祉国家の誕生	VALTAVA 改革、北欧型福祉国家	VALTAVA 改革を経てフィンランドの福祉国家が北欧型に変容する過程を整理する
13	1993 年改革の目的	VALTAVA 改革の影響 ソ連崩壊の余波	北欧型福祉国家化に伴う財政膨張とソ連砲火による国家的経済危機
14	包括補助金制度の内容	包括補助金制度 垂直的地方分権	財源と権限を地方政府に移譲するだけでなく、民間へも意思決定を下す制度の完成
15	現在に至るフィンランド福祉国家の変遷	健康福祉制度改革と地方制度改革	カイヌー実験、PARAS、ALUK、SOTE、ベーシックインカムなどの各種改革を整理する

■スクーリング事前課題（学修時間目安：10 時間）

レポート課題「福祉国家を定義し、エスピンアンデルセンによるその類型化を論じなさい」(4000 字以上)

・オンデマンド教材、『福祉資本主義の三つの世界』該当箇所をノートテイクしながらしっかり学習のこと

・上記二つを十分に理解できない場合は、自分でしっかり調べ理解してから課題に取り組むこと

・対面スクーリング当日持参「オンデマンド課題配布資料を各自印刷したもの」「オンデマンド課題を視聴学習した際のノート」「『福祉資本主義の三つの世界』或いは該当箇所のコピー、『フィンランド福祉国家の形成』(必須)

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	福祉国家について	オンデマンド
2	エスピンアンデルセンの福祉レジューム論 ～脱商品化指標～	オンデマンド
3	エスピンアンデルセンの福祉レジューム論 ～階層化指標～	オンデマンド
4	エスピンアンデルセンの福祉レジューム論 ～福祉国家の三類型～	オンデマンド
5	フィンランド福祉国家の特徴	オンデマンド
6	フィンランドの戦後復興と福祉国家形成過程	オンデマンド
7	1984 年の社会福祉保健国庫支出金改革	対面
8	1993 年の包括補助金改革	対面
9	包括補助金制度の内容	対面
10	現在に至るフィンランド福祉国家の変遷	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：10 時間）

レポート課題「日本の福祉国家と比較したうえで、フィンランド福祉国家についてあなたの感想を述べなさい」

（4000 字以上）
・過去のオンデマンド教材、スクーリング内容をノート等を用いて自分で一度再構築してみること
・外国の事例を知ることで、日本の社会福祉を相対化してみること
・北欧型福祉国家の条件、その特殊性についてしっかり学習したうえで課題にのぞむこと

■レポート課題

課題 1 （事前課題）	福祉国家を定義し、エスピンアンデルセンによるその類型化を論じなさい
課題 2 （事後課題）	日本の福祉国家と比較したうえで、フィンランド福祉国家についてあなたの感想を述べなさい

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

（課題 1）
オンデマンド動画教材だけでなく、それを理解するのに必要な資料を自ら集めて自主学習すること
基本的な日本語作文作法を遵守(主語や述語の対応、句読点や意味段落での改行、一文の長さ 等)
箇条書きではなく、論理的なレポート構成に努めること

（課題２）
課題１と同じ、それに加えて；
福祉国家の三類型、北欧型福祉国家、その中でのフィンランドを理解すること
スウェーデンとは異なるその福祉国家の形成過程に注目し、日本の社会福祉レジュームを外から相対的に眺めること。また、フィンランドや北欧型福祉国家の条件についてもよく理解すること。

■ 評価の方法・基準
・スクーリング 50%、課題レポート 50%

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）
＊1）山田真知子『フィンランド福祉国家の形成』木鐸社、2006
＊2）エスピンアンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房、2001（一部をコピーで配付します）

2023～ 災害福祉研究

単位数	履修方法	配当学年
2単位	SR	1・2年
担当教員	都築 光一	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

災害時における福祉支援体制とレジリエンス

■授業の目的

・災害時における福祉対応の基本的なあり方と、関連領域との協働による福祉実践に関する理解と実践の方法を構想できる。

・現代社会における災害福祉に関するレジリエンスの意義を理解し、具体的な実践の方向性を説明することができる。

■授業の到達目標

・災害時における福祉支援のために、これまでの様々な理論や取組みについて評価することができる。

・過去の災害時における取組みや、現行制度による対応について説明し、課題を述べることができる。

・災害時福祉支援の体制や具体的なアプローチに関し、地域住民や地域社会における回復力および強靱化の方向性について説明することができる。

■授業の概要

災害は、平時に突然発生し、平時における福祉対象者の他に、予期せぬ形で大量の支援対象者が出現し、あらゆる支援対象者に対する具体的な対応が、一挙に休む間もなく求められる。また災害の規模の他、種類や発生した時期や時間帯、さらには地理的条件も加わって複合的な要素が加味され、被災地の状況は多様である。こうした状況に対して従来は、公私の様々な支援が展開されてきていた。近年はこの中でも福祉支援の対応のあり方が議論されており、今後に向けた課題となっている。基本的に災害時の福祉支援は、急性期にとどまらず復旧復興期に至るまで求められ、この間、福祉支援が必要とする住民が、被災した急性期から復興を遂げた地域社会の一員として生活できるまでの間の、各ステージにおいてそれぞれ支援のあり方が望まれる。これら一連の災害福祉に関する支援体制について、個別対応から地域支援に至る包括的なあり方について、事例をもとに検討を加えつつ実践的に検討する。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	ガイダンス	15回の講義の概要の説明	・災害福祉研究の基本的な領域について講義 ・災害福祉の研究方法を講義
2	災害福祉① 災害福祉とは何か	災害福祉の概念と目標	・災害福祉の概念について文献にて講義 ・災害福祉の目標について文献にて講義
3	災害福祉② 災害福祉の制度	わが国における災害諸法制の概要	・災害諸法制の概要を講義 ・法制度の福祉の位置づけについて講義
4	災害福祉③ 災害時福祉支援体制	わが国における災害時福祉支援体制の概要	・政府から示された災害時福祉支援体制の概要を講義する
5	災害時福祉支援の理論① わが国の理論例	わが国における災害時福祉支援の理論	・わが国における福祉支援の理論の幾つかを取り上げ、その特徴を整理する
6	災害時福祉支援の理論② 外国の理論例	外国における災害時福祉支援の理論	・外国における福祉支援の理論の幾つかを取り上げ、その特徴を整理する

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
7	福祉支援の概要① 災害ボランティア	わが国における災害ボランティア活動	・災害ボランティア活動の仕組みを講義 ・活動事例などを通じて概要を講義
8	福祉支援の概要② 災害時施設間連携	わが国における災害時における施設間連携	・災害時施設間連携活動の仕組みを講義 ・活動事例などを通じて概要を講義
9	福祉支援の概要③ 災害派遣福祉チーム	わが国における災害派遣福祉チーム	・災害派遣福祉チーム活動の仕組みを講義 ・活動事例などを通じて概要を講義
10	福祉支援の概要④ その他の災害時支援	わが国における災害時における諸支援活動	・災害時諸支援活動の仕組みを講義 ・活動事例などを通じて概要を講義
11	福祉支援の概要⑤ 福祉支援活動の課題	わが国における災害時福祉支援活動の課題	・災害時福祉支援活動の課題について活動事例などを通じて概要を議論する
12	福祉支援活動の展開手法① 急性期	急性期における福祉支援活動	・災害時福祉支援活動の急性期における展開過程における手法を議論する
13	福祉支援活動の展開手法② 復旧復興期	復旧復興期における福祉支援活動	・災害時福祉支援活動の復旧復興期における展開過程における手法を議論する
14	福祉支援活動の展開手法③ 平時の備えと訓練	平時における福祉支援活動	・災害時福祉支援活動の平時における備えのあり方と支援活動手法の訓練の方法を検討し議論する
15	災害福祉研究のまとめ	災害福祉研究のまとめとレジリエンス	・災害とレジリエンスの視点から、福祉支援体制のあり方について議論しまとめる

■スクーリング事前課題（学修時間目安：15時間以上）

・災害時の急性期と復旧・復興期における福祉支援活動のあり方と、そのためのレジリエンスの視点について、理解を深めておきましょう。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	災害福祉とは何か①　災害福祉の概念と目標	オンデマンド
2	災害福祉とは何か②　法制度と災害時福祉支援体制の概要	オンデマンド
3	わが国と諸外国の主要な災害時福祉支援の理論	オンデマンド
4	福祉支援の概要①　災害ボランティアと施設間連携	オンデマンド
5	福祉支援の概要②　災害派遣福祉チーム等	オンデマンド
6	わが国における現在の福祉支援体制の課題	オンデマンド
7	福祉支援活動の展開手法①　急性期における福祉支援活動	対面
8	福祉支援活動の展開手法②　復旧復興期における福祉支援活動	対面
9	福祉支援活動の展開手法③　平時における福祉支援活動	対面
10	災害福祉研究のまとめとレジリエンス	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：15時間）

災害時の福祉支援体制に関する地域生活課題と、これに対応する様々な支援活動に関した概要を、具体的に把握しておきましょう。

■スクーリングの事前事後課題

課題 1 (事前課題)	災害からの復旧復興の各ステージについて、レジリエンスの視点に基づいた福祉支援活動のあり方に関し、事例を用いて具体的に述べなさい。
課題 2 (事後課題)	福祉支援活動の課題と解決に向けた実践のあり方に関し、災害の各ステージを踏まえ事例を用いて説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題 1 アドバイス

災害時の急性期と復旧・復興期等災害時における各ステージの理解と、各ステージにおける基本的な福祉支援活動のあり方を確認しましょう。その上で、レジリエンスの視点にもとづいた福祉支援活動に関し、説明できるようにいたしましょう。

課題 2 アドバイス

災害時の福祉支援体制に関する地域生活課題と、これに対応する様々な支援活動に関した概要を、具体的に把握しておきましょう。

■評価の方法・基準

スクーリング50%、課題レポート50%

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）都築光一編著『明日への胎動―東日本大震災後の地域福祉』東北福祉大学地域福祉研究センター、2015参考図書

2）アンドリュー・ゾッリ、アン・マリー・ヒーリー著、須川綾子訳『レジリエンス　復活力』ダイヤモンド社、2013.

3）西尾祐吾・大塚保信・古川隆司編著『災害福祉とは何か』ミネルヴァ書房、2010.

4）山口道昭・出石稔編、千葉実・北村喜宣著『自治体災害対策の基礎』有斐閣、2019.

5）レベッカ・ソルニット、高月園子訳『災害ユートピア』亜紀書房、2020.

6）ナオミ・ザック著、高橋隆雄監訳、阪本真由美・北川夏樹訳『災害の倫理』頸草書房、2020.

7）上野谷加代子監修・社団法人日本社会福祉士養成校協会編『災害ソーシャルワーク入門』中央法規、2013.

8）清水将之編著、柳田邦男・井出浩・田中究著『災害とこどものこころ』集英社新書、2012.

2023～ 身体機能障害特論

単位数	履修方法	配当学年
2単位	SR	1・2年
担当教員	齋木 しゅう子	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

身体機能の理解と身体機能障害による課題発見と研究

■授業の目的

リハビリテーションの理念を理解し、身体機能障害による生活機能の課題・問題を分析・考察する。

■授業の到達目標

①リハビリテーションの理念を説明できる。
②身体機能と運動について説明できる。
③身体機能障害の評価方法とその意義について説明できる。
④身体障害を呈する疾患の特徴と生活機能の課題・問題を分析し解説できる。

■授業の概要

運動機能は、移動や様々など日常の中で行われる動作や作業をするのに欠かせない機能ですが、病気やケガ、加齢により運動機能が障害されリハビリテーションの対象となります。医療・福祉サービスを含めて、リハビリテーションは対象者の「生活機能」の向上・維持を目指すことにあります。

この授業では、運動を行うための身体機能を理解し、その機能が破綻した病態・障害像について理解を深めます。身体機能の評価結果は多職種間で共有され、対象者の支援に必要な情報となり、その評価結果の意義や支援への活用について学びます。運動機能障害を呈する代表的な疾患について経過・予後、包括的リハビリテーションの介入から医療・保健・社会福祉の連携について理解を深めます。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	リハビリテーションとは	語源、成立過程	リハビリテーションの意味、歴史について学びます 教科書：A-1　参考図書２） 第１回スクーリング
2	ノーマライゼーション 自立生活運動	ノーマライゼーション 自立生活運動	ノーマライゼーション、自立生活運動について学びます。 教科書：参考図書２）で確認 第２回スクーリング
3	医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関係	医学的・職業的・社会的・教育的・地域リハビリテーション、地域包括ケアシステム	リハビリテーションの理解。医療と保健・社会福祉との連携について学びます。 教科書：A-2　第３回スクーリング
4	多職種連携 - ①	連携の必要性	連携の必要性と連携が有効に展開できるための要因について理解を深めます。 教科書：参考図書２）第３章 第３回スクーリング
5	多職種連携 - ②	専門職の理解	チームを構成する職種の専門性について理解します。 教科書：A8-13　第３回スクーリング

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
6	障害モデル（医学モデルと社会モデル）	ICIDH（医学モデル）とICF（社会モデル）	疾病構造と障害、ICIDHとICFの違いについて理解してください。 教科書：A-15　参考図書２)：第２章2-2 第２回スクーリング
7	障害受容	障害受容の過程	障害受容について学びます。 参考図書２)：第２章2-2
8	運動生理学	呼吸・循環・代謝	身体を動かすために必要な身体機能（呼吸、心臓、エネルギー生成）について理解します。 参考図書２）　第４章　第４回スクーリング
9	廃用性症候群	拘縮、筋力低下	廃用によって生じる拘縮・筋力低下について理解します。 教科書：B1-2　第５回スクーリング
10	運動麻痺、協調運動障害	麻痺、協調性	運動麻痺の状態、強調運動障害による病態について理解します。 教科書：B３、11　第５回スクーリング
11	評価 - ①	機能障害	機能障害の評価の意義を理解し、評価手段を理解します。 教科書：A-15　第７回スクーリング
12	評価 - ②	能力障害	能力障害の評価の意義を理解し、評価手段を理解します。 教科書：A-16　第７回スクーリング
13	脳血管障害の障害像	疾患の特性、二次障害	急性期～維持期へと各病期における障害像を理解する 教科書：C-1-2　第８回スクーリング
14	脳性麻痺、重症心身障害者	疾患の特性、二次障害	脳性麻痺、重症心身障害者の障害像を理解します。 教科書：C-13　第９回スクーリング
15	高齢者の特性	フレイル、サルコペニア	予防の視点から老年症候群を理解します。 教科書：B-12　第10回スクーリング

■スクーリング事前課題（学修時間目安：６時間以上）

・「PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論」あるいは参考図書としてあげた「リハビリテーション概論のいろは」を利用し、スクーリングの授業内容について確認して下さい。また、リハビリ専門職の業務についてイメージできない場合は日本理学療法士協会のURL　https://www.japanpt.or.jp/about_pt/therapy/tools/movie/#a2や、各専門職の団体が開設しているHP、疾患についてはYouTube等活用し障害像を理解してください。

・スクーリング初日の１週間前までに、事務室へ提出してください。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	リハビリテーションの理念、歴史について学びます	リモート
2	リハビリテーションの種類　障害のとらえ方：ICIDHとICFについて学び模擬症例を通し障害との関連性を検討します	リモート
3	地域包括ケアと多職種連携についてチームの構成のあり方を検討します	リモート
4	運動生理学：呼吸・循環機能・エネルギー代謝を理解し障害を有することでの問題・課題を検討します	リモート
5	関節機能障害、筋力低下、運動麻痺、協調運動障害の障害像を学びます	リモート
6	脳血管障害、骨折、パーキンソン症候群、脳性麻痺・重症心身障害者の実際を学びます	リモート
7	ADL、QOL評価、運動能力の評価に関する評価の目的、結果の意味につい各疾患の特性から評価結果の意義を学びます。	対面
8	脳血管障害の模擬症例の情報からICFの活動・社会参加について検討し発表します。	対面
9	脳性麻痺・重症心身障害者の特性と模擬症例の情報からICFの活動・社会参加について検討し発表します。	対面

	授業の内容	授業の方法
10	高齢者の特性からICFの活動・社会参加について検討し発表します。	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：6時間）

・疾患と障害を理解し、活動や参加におよぼす影響と、介入できる支援等についてまとめます。また、提示した模擬症例について、疾患や病態をまとめICFにおける生活機能レベルの問題・課題について症例情報を分析し各情報の関連性から説明する。

■スクーリングの事前事後課題

課題1（事前課題）	リハビリテーションの理念、医学モデルから社会モデルへの変遷、身体機能障害によって引き起こされる病態についてまとめなさい。（スクーリング初日の1週間前までに提出）
課題2（事後課題）	提示した模擬症例について、疾患や病態をまとめICFにおける生活機能レベルの問題・課題について症例情報を分析し各情報の関連性をまとめます。症例に提供できる支援についてまとめます。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題1 アドバイス

医学的リハビリテーションが、2度にわたる世界大戦によって発展したという歴史を持ち身体機能に重きを置いた時代から生活に目を向け対象者を捉える視点に変化した背景を理解して下さい。身体の各機能が破綻した状態は病気であり、障害が生じます。障害の存在が、社会参加、QOLに影響することを理解しどのような障害が起きるのかその概要を捉えてください。

課題2 アドバイス

模擬症例の病態について調査し理解を深めます。症例情報についてICFのどこに入る内容か、検討し身体構造の問題が活動・参加にどう影響しているのか。またそこに、環境や個人の要因がどう関わっているか関連性を捉え、まとめて下さい。参考文献としてあげた書籍を読み活用してください。

■評価の方法・基準

スクーリング40%、事前課題20%、事後課題20%、発表20%

■参考文献（＊印＝大学から送付される必読図書）

＊1）椿原　彰夫編著『PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論　改訂第3版』診断と治療社、2017年

2）川手信行『リハビリテーション概論のいろは』南江堂、2022年

3）澤村誠志監修『社会リハビリテーション論　第2版』三輪書店、2007年

4）細田多穂監修『理学療法概論テキスト　改訂第3版』南江堂、2019年

授業科目名	【BPシラバス】 特別研究講義Ⅰ(公開講座)	授業形態	SR	時間数	12時間	単位数	1単位
担当教員名	大島 巌・竹之内章代・芳賀恭司・庄子清典・野田 毅・田中伸弥・小渡加依						
受講する時の留意点 （注意事項）	※ 所属する社会福祉法人があり、福祉現場での実践の経験があること（経験がないと演習や実施報告の課題が作成できない恐れがあるため） ※ 現場でのプランを検討したり、実施したりすることが課題として求められているため、それらが可能な立場にあること						
授業のテーマ	地域の福祉課題解決に貢献する福祉等施設の公益活動～人も資金も集まり社会に役立つ「打ち手」の創出と展開						
授業の目的	1. 社会福祉等事業の経営者や公益事業担当者、法人におけるソーシャルワーカー等職員が、有効な地域公益事業の実践理論と方法を共有することができる。 2. 自らが所属する法人等における公益的な取組を見直し、より有効な地域貢献事業を計画し、法人内での共有から実行、さらにその効果や成果の検証ができる。						
到達目標（学習成果）	1. 社会福祉事業において、公益事業の必要性と有効な理論について考察を深め、具体的な方策を提案することが できる。 2. 社会福祉法人に求められる使命を理解し、法人の運営や人財育成等について、ソーシャルワーク理論や実践から考察することができる。						
授業の概要	2016年改正社会福祉法において、社会福祉法人の公益性・非営利性を踏まえた「地域における公益的な取組」の実施に関する責務規定が創設された。さらに、2020年の改正では地域共生社会の実現を目指した包括的支援体制の構築が謳われている。そこでこの講義では、社会福祉法人に求められる「地域に根ざした公的事業」実施にあたって必要となる理論と好事例を講義から、さらにワークショップを通じて具体的な実践方法を学ぶ。これらの実践と学びが、法人での人財確保や経営の安定、地域貢献につながることを実感できる講義となることを期待する。						
授業の進め方と方法	この講義は、必要に応じて「オンデマンド」「オンライン」「対面」あるいは「オンライン＋対面」など、授業形態の工夫をしながら進めていく。講義の構成としては、講義を通じて「実践理論」や「好事例」から学び、さらにワークショップ形式による「事業計画の立案」、インターバルをおいて「事業計画の実施とその成果」についての報告を実施する。						
成績評価の方法と基準	各回の授業での成果物30%、演習等への参加度30%、最終レポート40%						
課題へのフィードバック	課題については、授業中にフィードバックをします。						
テキスト	講師作成資料を配付						

授　業　計　画　※社会福祉法人等との連携（社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成）

第1回	テーマ	オリエンテーション（庄子･野田･田中･竹之内） 総論１ 社会福祉法人における公益事業の取り組みについて（法的根拠や背景、法人における考え方・方針と事業展開）	内　容	この講義の進め方についての確認を行う。 地域における公益的な取組が実施される背景と社会的意義・役割、現在の取組み状況を共有する。 ※実務家教員・実務家による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第2回	テーマ	総論２（竹之内･大島） 法人をとりまく地域課題の分析と抽出、課題解決に有効なプログラム開発と評価の方法	内　容	社会福祉法人等が取り組む有効な地域公益事業の実践理論を学ぶ。 ニーズ把握から打ち手の創出、計画の策定、モニタリングや検証等の方法論について学ぶ。 ※実務家教員による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第3回	テーマ	実践事例報告１（野田・小渡） 社会福祉法人における公益事業の取り組み	内　容	社福）東北福祉会の取組み ※実務家による授業 ※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等からの事例報告等による授業及び企業等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）

第４回	テーマ	実践事例から何を学ぶか１（大島･竹之内） 「プログラム開発と評価」の視点から実践事例の分析・検討と共有①	内　容	「プログラム開発と評価」の視点から実践事例報告に対する振り返りと、参加者の各自の実践との関連性の検討と共有を行う。 ※実務家教員による授業 ※※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第５回	テーマ	実践事例報告２（田中） 社会福祉法人における公益事業取り組み	内　容	社福）ライフの学校の取組み ※※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第６回	テーマ	実践事例から何を学ぶか２（大島･竹之内） 「プログラム開発と評価」の視点から実践事例の分析・検討と共有②	内　容	「プログラム開発と評価」の視点から実践事例報告に対する振り返りと、参加者の各自の実践との関連性の検討と共有を行う。 ※実務家教員による授業 ※※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（内容に沿って受講生を含めた意見交換を実施）
第７回	テーマ	演習１（竹之内･大島･野田･田中･芳賀） 参加者の各自実践の「打ち手」の開発・創出、事業実施計画の策定	内　容	これまでの講座を踏まえ、各自組織における公益的取組について分析し、見直しと計画の策定を行う。 ※実務家教員・実務家による授業 ※※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（少人数に分かれてグループディスカッションを実施）
第８回	テーマ	演習２（竹之内･大島･野田･田中･芳賀） 開発・創出した「打ち手」と事業実施計画の報告・全体共有	内　容	各自組織における「打ち手」と実施計画を報告し、ディスカッションを行う。口講座全体を振り返り、今後の課題とあり方について全体共有する。 ※実務家教員・実務家による授業 ※※社会福祉法人等との連携（※社会福祉法人等と協議を重ねて授業内容を編成） ※双方向（少人数に分かれてグループディスカッションを実施）
最終レポート課題		演習において作成した実施計画書について、全体共有で得た課題を踏まえ、修正案を作成し、提出すること。また、講義全体を通じて、具体的にどのような学びをし、その学びを実践活動にどのように活かすかについて、述べよ。		
教員への質問・相談		授業終了後もメール等で受け付ける。		
備考		企画案に基づく実施状況を、2023年12月にフォローアップ講座を行う予定です。		

特別研究講義Ⅱ （TFU 実学臨床研究セミナー）	単位数	時間数	履修方法	配当学年
	2単位	22.5 時間	SR	1・2年
	担当教員	三浦　剛　　他		

■授業のテーマ

包摂社会をつくる　～新たな社会的排除の解決に向けて

日本の地域社会や家族は、近年大きく変化、多様化し、新たな生活障害や、孤独・孤立などの社会的排除を生んでいる。この授業では「TFU 実学臨床研究セミナー」を通して、家庭や地域で起きているこれらの課題やその実態を把握し、また、その解決・解消をめざす包摂社会をつくるためのソーシャルワーク、多職種連携、人材養成などの実際とあり方について、各回のテーマに沿って展開していく。

■授業の目的

・変化、多様化する家族と地域社会の有する問題を把握する。
・その解決・解消のための各分野からの取り組みを学ぶ。

■授業の到達目標

・今日の変化、多様化する家族と地域社会の有する問題を整理し、発生する機序を説明することができる。
・その解決・解消のための各分野からの取り組みを理解し、包摂社会づくり(ソーシャルインクルージョン)のための方法を具体的にイメージすることができる。

■授業の概要

社会的包摂をめざす、各分野あるいは多機関連携による取り組みを、月 1 回開催される「TFU 実学臨床研究セミナー」で、各分野の講師がリアルタイムに展開するとともに、計 3 回の対面、オンラインによる受講の準備、確認、まとめを行い、実学臨床研究の視点、視座などについて確認する。

なお、以下のような内容を予定している。

1. 「新たな社会問題に向き合う」第一線で活躍するソーシャルワーカーや社会活動家を招き、変化、多様化する社会の状況を共有する。【セミナー４回分を充てる】
2. 「地域社会、支援の現場から」このセミナーの実施に協働で取り組んでいる本学の関連法人や社会福祉士会などの職能団体などから、地域づくり（社会資源開発）や多職種連携、人材育成などの実際を伺い、社会的包摂を目指す取り組みのあり方、方法を検討する。【セミナー２回分を充てる】
3. 「実学臨床研究の今」 本学の教員からその専門分野に関する最新の研究、実践を紹介する。【セミナー４回分を充てる】
4. 「実学臨床研究への誘い」本大学院で学び、研究的実践家や実践研究者として活躍する卒業生などから、大学院での研究、その後の実践との結びつきなどについて、パネルディスカッションなどの方法で紹介する。【セミナー２回分を充てる】

■スクーリング授業計画　※企業等との連携（企業等と協議を重ねて授業内容を編成）

	授業の内容	授業の方法
1	【実学臨床研究とは何か】 セミナーを受講するにあたって学修目標の設定などの準備をする（三浦剛他）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （4月21日）
2	「TFU 実学臨床研究セミナー第１回」 1，権利擁護と当事者主体 1-1　権利擁護と成年後見（竹之内章代）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （4月28日）
3	「TFU 実学臨床研究セミナー第２回」 1．権利擁護と当事者主体 1-2　困難女性支援におけるより添い支援（八幡悦子）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （5月26日）
4	「TFU 実学臨床研究セミナー第３回」 1．権利擁護と当事者主体 1-3 リカバリー志向サービス発展の可能性※企業等との連（大島巌）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （6月29日）
5	「TFU 実学臨床研究セミナー第４回」 対人援助におけるコミュニケーション技術（武村尊生）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （7月未定）
6	「TFU 実学臨床研究セミナー第５回」 実践課題解決に役立つ「実践研究の方法(三浦剛、修了生)	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （8月25日）
7	【これまでの振り返り】 これまで５回のセミナーを振り返りまとめを行い、６回以降のセミナーでの学修目標を考える（三浦剛）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （7月未定）
8	「TFU 実学臨床研究セミナー第６回」 2．地域とつながる・地域を作る 2-1 認知症フレンドリー社会の取り組み（未定）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （9月未定）
9	「TFU 実学臨床研究セミナー第７回」 2．地域とつながる・地域をつくる 2-2 社会的孤立の予防と地域づくり～東日本大震災復興支援の経験に基づく質的研究から　（石附敬、芳賀恭司）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （10月27日）
10	「TFU 実学臨床研究セミナー第8回」 （福祉系職能団体コラボ企画） 地域共生社会におけるソーシャルワーカーの役割とは（未定）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （11月25日）
11	「TFU 実学臨床研究セミナー第９回」 3．地域包括ケアと多職種連携 3-1 住み慣れた地域で暮らすことを支援する～老人保健施設における実践から（土井勝幸）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （12月21日）

12	「TFU 実学臨床研究セミナー第 10 回」 3. 地域包括ケアと多職種連携 3-2 障がいのある子どもと家庭を支えるシステムづくり（小林紀代）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （2024年1月26日）
13	「TFU 実学臨床研究セミナー第 11 回」 社会福祉におけるスーパービジョン（田中尚）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （2月16日）
14	「TFU 実学臨床研究セミナー第 12 回」 シンポジウム　社会課題解決に向けた包摂（インクルーシブ）社会とは(大学院担当教員)	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （3月2日）
15	【まとめ】 セミナー全体を振り返り、目標の達成状況を整理する（三浦剛）	対面・オンライン・オンデマンドで開講 （3月2日）

■レポート課題

課題 （事後課題）	社会課題解決に向けた包摂（インクルーシブ）社会とは。セミナーを通じて学んだことをまとめなさい。

■評価の方法・基準

・「TFU 実学臨床研究セミナー」への出席と各回の課題の提出(5%×12)

・事後課題レポート（40%）

■参考文献

各担当講師作成の資料等